

保育学科

幼稚園教諭二種免許状

科目名	日本国憲法		授業番号	EA203	サブタイトル	(身近な問題から「憲法のちから」を考える)					
教員	俣野 英二										
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	<p>本科目では、日本国憲法および他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。</p> <p>具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会(24年)及び県庁における人権啓発・相談経験(4年)を踏まえて概説する。次に、基本原理等に関する憲法問題について、グループワークを行い各自でワークシートにまとめさせる。そして、各章の小テストを課題としてUniversal Passport上でを行い、基礎的な知識の定着を図る。さらに、憲法の基本原理、統治機構、人権に関する発展的な問題を全体で討議し、現代的な問題を分析、考察する。</p> <p>これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。</p>										
到達目標	<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら、主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景及び相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うので、幅広い教養のうち、特に変化の激しい現代生活に対応できる幅広い知識の修得に貢献する。また、グループワークや全体での討議を通じて、他者の有する異なる価値観や考えの存在を尊重しつつ協力して課題を解決する作業を行うことから、他者との関係が良好であるように努めるとともに、継続して学習意欲を持ち続ける態度の修得に貢献する。以上のようにこの科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容の&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	<p>ガイダンス、この国の基礎にある考え方 1</p> <p>1 学修の目標、評価方法などを説明する。</p> <p>2 近代立憲主義について学修する。</p>										
第2回	<p>この国の基礎にある考え方 2</p> <p>1 法の支配について学修する。</p> <p>2 土佐の女人規制について考える。</p> <p>3 国家機関としての天皇制(明治憲法と天皇)について学修する。</p>										
第3回	<p>この国の基礎にある考え方 3</p> <p>国家機関としての天皇制(日本国憲法と天皇)について学修する。</p>										
第4回	<p>この国の基礎にある考え方 4</p> <p>憲法が目指す平和を守る仕組み 1(憲法9条の制定と安保条約の締結)について学修する。</p>										
第5回	<p>この国の基礎にある考え方 5</p> <p>憲法が目指す平和を守る仕組み 2(台湾有事と存立危機事態)について学修する。</p>										
第6回	<p>人権を守るための組織 1</p> <p>1 統治機構 1(政治と国民、国会議員)について学修する。</p> <p>2 若者の投票率の向上策について考える。</p>										
第7回	<p>人権を守るための組織 2</p> <p>統治機構 2(選挙、選挙制度、政党)について学修する。</p>										
第8回	<p>人権を守るための組織 3</p> <p>統治機構 3(国会)について学修する。</p>										
第9回	<p>人権を守るための組織 4</p> <p>統治機構 4(内閣)について学修する。</p>										
第10回	<p>人権を守るための組織 5</p> <p>統治機構 5(地方自治、裁判所)について学修する。</p>										
第11回	<p>身近な問題から考える人権 1</p> <p>良心をもつ自由、貴く権利について学修する。</p>										
第12回	<p>身近な問題から考える人権 2</p> <p>1 表現の自由と書かれない権利について学修する。</p> <p>2 プライバシーについて考える。</p>										
第13回	<p>身近な問題から考える人権 3</p> <p>営業の自由と消費者の権利について学修する。</p>										
第14回	<p>学校における生徒の人権</p> <p>1 子どもの教育を受ける権利と教師の教育の自由について学修する。</p> <p>2 学校内における生徒の人権について学修する。</p> <p>3 旭川いじめ凍死事件からいじめを考える。</p>										
第15回	<p>困らないための権利、差別されている人たちへの配慮</p> <p>1 憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。</p> <p>2 積極的な格差解消の取り組みの合憲性の判断の仕方について学修する。。</p>										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別		割合		評価基準・その他備考							
グループワークの取り組み姿勢/態度		30		講義中のグループワーク時に各自が提出したワークシートに要求された内容が整理されていること。ワークシートを通じて必要に応じ個別指導を行うとともに、講義中に全体講評を行う。							
小テスト		30		学修に対する意欲・態度、基本原理及び基礎知識の理解を評価する。回答期限後、Universal Passportに解説を表示する。							
定期試験		40		基本原理及び基礎知識を理解し、身近な憲法問題に対して異なる価値観・意見に配慮しながら主体的かつ論理的にこれらを活用して結論を導くことができる。							
評価の方法：自由記載											
受講の心得	<p>1 公民や現代社会が苦手な学生は、あらかじめ高校で使用したテキストや資料集などの日本国憲法に関する部分を読んでおくこと。</p> <p>2 事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。</p> <p>3 各講義中にワークシートを提出する。それが出席カードも兼ねるとともに成績評価の対象なので必ず提出すること。</p> <p>4 各章に対応する小テスト(Universal Passportの課題)を受験すること。</p>										
授業外学修	<p>1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。</p> <p>2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また、小テスト受験後、誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。</p> <p>3 ワークシートが返却された後、グループワーク、講義、テキスト、小テスト等を踏まえて再度整理し直し、理解を深めるとともに試験に備える。</p> <p>事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。</p>										

使用テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04343-6	2400円+税
使用テキスト：自由記載	授業において随時紹介する。			

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック憲法入門第3版	毛利透	新世社	978-4-88384-397-8	
新・判例ハンドブック【憲法】第3版	高橋和之	日本評論社	978-4-535-52793-5	
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験を いかけた教育内容	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	ルーブリック				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、大体述べるができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し、理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に理解し述べるができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性をもち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べるができる。	課題に対し、結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べるができない、または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2. 多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見の存在を並列的に述べるができる。	課題に対し、不十分なから複数の価値観・意見の存在を述べるができる。	課題に対し、複数の価値観・意見を述べるができない、または指示事項に沿っていない。
態度	1. グループワークに積極的に参加できる。	調査、質問などを積極的に行い、課題内容を理解した上で、適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ、課題内容を理解した上で、適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し、課題内容を理解した上で、ワークシートを提出している。	グループワークに参加し、ワークシートを提出しているが、課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または、グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	情報処理概論 1年1クラス			授業番号	EA206A	サブタイトル	(コンピュータの基礎知識)		
教員	赤木 竜也								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学習する。なお、本授業は教職必修科目である。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	初回授業日よりMicrosoft社製Word、Excelおよびインターネットを使用する。授業内でのセットアップ等は行わないので、各自授業開始日までにPCのセットアップを完了しておくこと。また学内Wi-Fiへの接続も完了しておくこと(授業当日困らないよう前日までに完了しておくこと)。								
回	概要					担当			
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。								
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データについて学習する。								
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。								
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。								
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。								
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。								
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。								
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。								
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ、円グラフ)の作成方法について学習する。								
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。								
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。								
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。								
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。								
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。								
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ、表計算について理解・学習する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。						
	定期試験	60	習熟達成度を評価する。						
	その他	10	授業中出題する演習問題について評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。								
授業外学修	授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	30時間でマスター Word&Excel2021 (Windows11対応)	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100				
使用テキスト：自由記載									
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立鳥城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年）、県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. データの特性について理解している。	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに、適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	2. ビジネス文書について理解している。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し、時候の挨拶を適切に扱することができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	3. 表計算ソフトの関数および演算について理解している。	絶対参照・相対参照の違いを理解し、正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用、演算し、わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり、関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず、また正しく演算することができない。
知識・理解	4. グラフの特性について理解している。	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し、またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し、グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが、グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	1. 正しくデータ入力することができる。	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け、正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けられず、また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けられず、また入力がおぼつかない。
技能	2. ソフトウェアを操作することができる。	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり、操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず、また適切に操作することができない。

科目名	体育講義 (全8回)		授業番号	EA207	サブタイトル	(子どものからだと心の健康)				
教員	土田 豊									
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択	
授業概要	知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また、セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し、対処法についても学びます。									
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて理解し、保育・教育の現場に出た際、子どもたちのからだと心の異変に気づき、適切に対処できる力を養うことを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているのかじっくりと考えます。									
第2回	「ホルモン」のはたらきについて考える 眠りのホルモンと呼ばれる「メラトニン」について、分泌の仕組みや働きについて考えます。									
第3回	「自律神経」のはたらきについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考えます。									
第4回	「土踏まず」のはたらきについて考える 人間が、二足歩行する上で重要な働きをしている土踏まずについてじっくり考えます。									
第5回	「背筋力」のはたらきについて考える 土踏まず同様人間が、二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら考えます。									
第6回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること、健康診断では分からないことについて考えます。									
第7回	「前頭葉」のはたらきについて考える 人間の感情や記憶、想像力などの中枢である前頭葉の仕組みや育て方について考えます。									
第8回	「子どものからだを元気にする方法」について考える 3泊31日キャンプが、子どものからだを元気にする理由について映像も見ながら考えます。									
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況の評価する。毎回配布するワークシートに授業に沿った記録がされていたり、発表できたりすることを加点対象とする。							
	レポート	40	事前学習や授業で学んだことを踏まえ、自分自身の問題として具体的に述べていること。授業内容を理解し、具体的な事例として捉えられている度合いに応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学びのフィードバックとする。							
	小テスト	30	全8回の授業内容を踏まえ、子どものからだと心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。自分の考えが具体的に記述されている度合いに応じて、得点化する。							
	定期試験									
	その他									
評価の方法：	自由記載									
受講の心得										
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>「子ども」「からだ心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、情報を収集すること。</li> <li>各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。</li> <li>授業で学んだことを日常生活で実践したり、保育現場で見聞きた子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。</li> </ol> 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。									
使用テキスト										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：自由記載	その都度プリントを準備する。									
参考図書										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載										
その他										
備考										
注意事項										

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	学校現場や自然体験施設での経験を生かして、体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.人間のからだと心の仕組み の理解	人間のからだと心の仕組みや 育ちについてメディア、文献等 から情報取を集し、自分のか らだと心の状態に重ね合わせて 理解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや 育ちについてメディア、文献等 から情報取を集し、より深く理 解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや 育ちについてある程度理解 し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや 育ちに興味を持つことができ ているが、理解したことの記述が 不十分である。	人間のからだと心の仕組みや 育ちについて理解できず、記 述もできていない。
知識・理解	2.現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題についての 理解	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題に興味や関 心を持ち、文献やインターネット で調べ、解決方法についての 自分の考えを記述することが できている。	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題について、文 献やインターネットで調べ、より 深く理解し、記述できている。	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題についてある 程度理解し、記述できている。	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題について関 心を持つことができているが、 理解したことの記述が不十分 である。	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題について理 解できず、記述もできていな い。
思考・問題解決能力	1.からだと心の問題の解決方 法の模索	からだと心の問題に対する解 決方法について複数の視点か ら考え、具体的な方法につ いて発表することができる。	からだと心の問題に対する解 決方法について複数の視点か ら考え、発表することができ る。	からだと心の問題に対する解 決方法について考え、発表す ることができる。	からだと心の問題に対する解 決方法について考えることは できているが、発表に対して消 極的である。	からだと心の問題に対する解 決方法について考えることが できず、発表することもでき ない。
思考・問題解決能力	2.子どもたちと接した経験の中 での問題を把握と解決策の創 造	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について深く考 え、具体的な解決策を考え発 言することができる。	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について深く 考え、解決策を考え発言す ることができる。	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について考 え、解決策を考え発言す ることができる。	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について考 えることはできているが、解決 策を考え、発言することが不 十分である。	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について考 え、発言することができない。

科目名	体育実技 1クラス		授業番号	EA208A	サブタイトル	(適切な運動実践)				
教員	土田 豊									
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技(対面授業科目)	必修・選択	選択	
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ(集団的スポーツ・個人的スポーツ)の練習や試合に取り組む。									
到達目標	バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し、チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	体力テスト グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。									
第2回	バレーボールI(ルールと基本技術の理解) 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。									
第3回	バレーボールII(基本技術の習得とゲームの導入) 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを体験します。									
第4回	バレーボールIII(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。									
第5回	バレーボールIV(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。									
第6回	バレーボールV(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。									
第7回	バドミントンI(ルールと基本技術の理解) 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。									
第8回	バドミントンII(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。									
第9回	バドミントンIII(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。									
第10回	バドミントンIV(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。									
第11回	バドミントンV(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。									
第12回	卓球I(ルールと基本技術の理解) 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。									
第13回	卓球II(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。									
第14回	卓球III(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。									
第15回	卓球IV(ゲームの展開) チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。									
授業計画 備考2										
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況の評価する。授業に休まず出席し、練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また、メンバーに声を掛けたり、援助などができていれば加点対象とする。							
	レポート	20	各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し、コメント入力後返却する。							
	小テスト	30	バレーボールにおいては、トス、サーブの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。							
	定期試験									
	その他									
評価の方法：自由記載										
受講の心得	運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。									
授業外学修	1. 日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 2. 各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。									
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：自由記載	特に使用しない(作成資料を活用)									
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載										

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭 10年
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	学校現場での経験を生かして、日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。

## ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができている。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	2. 各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
思考・問題解決能力	1. チームの課題に対する取り組み姿勢	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーと共に解決に向けて積極的に取り組むことができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーに提案することができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考えることができている。	チームの課題を見つけることはできているが、その解決策について考えることが不十分である。	チームの課題を見つけることができない。
技能	1. 各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。
態度	1. グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	2. 活動に取り組む意欲	どの種目に対しても、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られ、自分だけでなく、みんなで楽しめる雰囲気作りができている。	どの種目に対しても、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られ、場の雰囲気を盛り上げようとする態度も感じられる。	どの種目に対しても、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られる。	特定の種目については、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られる。	体を動かすことに対して消極的で、活動に対する意欲が感じられない。

科目名	英語 A	授業番号	EA211A	サブタイトル	保育の英語				
教員	藤田 香織								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	グローバル人材を育成するため、多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での1年間を通して、使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。								
到達目標	児童を支援できる人になれるよう、基礎的な語彙・文法事項を理解し、その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき、基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	ガイダンス 1 The School Year Begins グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。								
第2回	2 Arrival 3 Playtime in the Classroom グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第3回	4 In the Sandbox 5 In the Playground グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第4回	Grammar1 文法を学習し、パターンプラクティスを行う。								
第5回	6 Lunchtime 7 Changing Clothes and Story time グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第6回	8 Nap Time 9 Blowing Bubbles グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第7回	10 A Sick Child 11 Preparation for the Sports Day グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第8回	Grammar 2 文法を学習し、パターンプラクティスを行う。								
第9回	12 The Sports Day 13 Going for a Walk グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第10回	14 Discovering Autumn 15 Drawing & Letter Writing グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第11回	Grammar3 文法を学習し、パターンプラクティスを行う。								
第12回	16 Snow Diary 17 Leaving for Home グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第13回	18 School Diary 19 Bean-Throwing Day グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第14回	20 With Thanks for a Wonderful School Year グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し、その内容についてディスカッションを行う。 そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し、学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。								
第15回	Grammar4 文法を学習し、パターンプラクティスを行う。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。						
	レポート	20	課題のテーマであるお手紙・書類・張り紙づくりの提出・訳 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。						
	授業内文法テスト	20	文法の理解度を評価する。授業内容の理解度を評価する。						

定期テスト	20	授業の扱った本文内容の理解を評価します。授業内の小テスト内容を中心に出題します。フィードバックは授業内の小テストで扱っております。
授業内小テスト	30	毎回授業の最初に小テストを行う。毎回の授業後の復習を行うこと。文法・表現・絵本の訳・幼稚園で使う言葉テストを理解し、覚え、使えることを評価する。小テスト後でフィードバックを行う。
評価の方法： 自由記載		
受講の心得		・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修		

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育の英語	森田和子	三修社	ISBN10-4384333994	2090円
使用テキスト： 自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	高校（6年）、他大学講師（5年）、他大学学習アドバイザー（2年）、専門学校学・日本語学校（2年）、塾（6年）、英会話講師（1年）オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーター（1年）			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容	高校、大学、専門学校学、日本語学校、塾、英会話オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーターの現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験があります。学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができます。また、大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができます。			

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。本文・単語の理解がよくできている。	英語の基礎的な文法に則って、一定分量の英文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。	英語の基礎的な文法に則って、短い英文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。	短い英文を読んだり、聞いたりしておおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの、短い英文を読んだり、聞いたりしても内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で、短い英文を読んだり、聞いたりしても内容を理解することができない。
知識・理解	2. 対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて、相手と話したり、文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて、相手と対話を口頭で再現したり、書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて、相手と音読対話練習することはできるが、十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく、対話練習することも困難である。

科目名	教育原理	授業番号	EC101	サブタイトル	
教員	藤井 裕士				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	講義(対面授業科目)
					必修・選択
					必修
授業概要	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などの関わり, 教育の思想と歴史の変遷, 教育の制度, 教育実践の取組, 生涯学習社会における教育の現状と課題についての基本的な考え方や内容について, 映像教材等を交えながら講義する。				
到達目標	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などの関わり, 教育の思想と歴史の変遷, 教育の制度, 教育実践の取組, 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解を深めると共に, 学修を通して自分なりの教育観をもつことができる。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解>の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	教育の意義・目的 (1)「どんな先生になりたいか」という問いのもと,自身の教育観を言語化する。				
第2回	教育の意義目的 (2) 教育の意義・目的について理解する。				
第3回	乳幼児期の保育の教育の特性乳幼児期の発達や, 幼児教育で育む「資質・能力」について理解する。				
第4回	教育と子ども家庭福祉の関連性児童福祉法や子育て支援等について理解する。				
第5回	人間形成と家庭・地域社会家庭, 地域社会の変化する現状について理解する。				
第6回	諸外国の教育思想フレーベルやペスタロッチ等の諸外国の教育思想について理解する。				
第7回	学校教育の意義①「学校は必要か」という問いのもと,学校教育の意義について検討する。				
第8回	諸外国の教育の歴史諸外国における公教育の歴史について理解する。				
第9回	日本の教育思想・歴史及び,海外の教育思想国内や海外の教育思想や歴史を理解する。				
第10回	さまざまな教育実践①フレーベル理論に基づく教育について理解する。				
第11回	さまざまな教育実践②モンテッソーリ理論に基づく教育について理解する。				
第12回	さまざまな教育実践③シュタイナー教育について理解する。				
第13回	教育の意義の再考①映像教材をもとに,教育の意義について考える。				
第14回	教育の意義の再考② 映像教材をもとに,教育の意義について考える。				
第15回	教育にまつわる諸制度 教育に関する制度,法律を理解する。生涯学習の概念やこれからの教育政策について理解する。				
授業計画 備考2					
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。		
	振り返りシート	15	各回の主要なポイントの理解を, 授業後に行う振り返りシートにより評価する。振り返りシートはチェックを行い, 次回の授業で返却し,全体的な傾向についてコメントする。		
	定期試験	55	最終的な理解度を評価する。		
	その他	15	発表や演習に対する意欲・態度によって評価する。		
評価の方法: 自由記載					
受講の心得	1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 発表や討議に積極的に取り組むこと。 3 配付する資料を整理しておくこと。				
授業外学修	1 配布資料を読み, 疑問点を明らかにする。 2 復習として, 資料を読み直す。 3 発展学修として, 授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。				
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト: 自由記載					
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ2 教育原理	矢藤誠慈郎, 北野幸子	中央法規	978-4-8058-5782-3		
参考書:自由記載	授業の多くは,参考書の内容に触れている。必要な場合は,インターネットなどで個人で購入すること。				
その他					
備考					
注意事項					

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	特別支援学校での経験（14年）から教育思想,教育実践等について具体例を交えながら説明を行う。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 教育の基本的な意義と 目的について深い理解を持ち, 具体的な例を用いて説明でき る。	教育の意義と目的について深 い理解を示し,多様な教育現 場での適用例を豊富に提供で きる。	基本的な意義と目的を正確 に理解し,一般的な例を用い て説明できる。	教育の意義と目的の基本を 理解しているが,具体例の提 供には限界がある。	意義と目的の理解が不完全 で,適用例の説明が不十分。	教育の意義と目的についての 基本的な理解が欠けている。

科目名	保育者論	授業番号	EC205	サブタイトル	
教員	山本 房子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	講義(対面授業科目)
					必修・選択
					必修
授業概要	人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者の果たす役割は大きく、保育者の人間性や専門性の向上が求められる。そうした今日求められている保育者の役割や資質能力について学ぶとともに、学生が自らの課題を認識したうえで、保育者としての意欲や自覚を高めることを目標に講義する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者に求められる役割や資質能力を理解できる。</li> <li>・保育者の人間性や専門性について考察し、理解できる。</li> <li>・保育者の連携・協働の必要性について理解できる。</li> <li>・保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	保育者とは 保育者とはどのような人なのか、自身の目指す保育者、高めたい資質や能力について考える				
第2回	保育者になるための免許・資格について法律や法令をもとに学ぶ				
第3回	保育者の専門職倫理と職業倫理について 適切・不適切な保育について考える				
第4回	保育者の専門性について 保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質能力について考える				
第5回	保育者の役割① 子どもの遊びにおける保育者の果たす役割について理解する				
第6回	保育者の役割② 環境を通じた保育における保育者の果たす役割について理解する				
第7回	保育者の子どもの発達を捉える視点 保育者の子どもを見る視点について、事例を通して学ぶとともに、自身の子どもを見る視点を意識する。				
第8回	保育及び保育者の質の向上について、事例をもとに考える NCT(ノンコンタクトタイム)について理解する				
第9回	保育を担う組織づくり 保育実践における協働について、事例やDVD資料をもとに考える				
第10回	成長する保育者と同僚性について、同僚性の意味や重要性について学ぶ				
第11回	家庭や地域と連携・支援する保育者の役割について学ぶ				
第12回	保育者のキャリアとは 保育者のキャリア形成及び段階について理解するとともに、自身の保育者としてのキャリアプランについて考える				
第13回	現代の子どもたちの様子とその背景にある多様な要因について学ぶ				
第14回	保育者の歴史や諸外国の保育や幼児教育について学ぶ				
第15回	これからの保育者に求められること これまでの学修をふまえて、今後社会から求められる保育者像、自身が目指す保育者像について考える				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	30	課題に対し、授業の要点を押さえたうえで、自分の考えを分かりやすく記入できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。		
	定期試験	50	到達目標に示している内容に関する試験を行い、理解度を評価する。		
評価の方法：自由記載					
受講の心得	保育者を志す学生として自覚をもって授業に取り組むこと。				
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、授業にかかわる視点について教科書の指定された部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>・復習として、授業を振り返り、ノートの記入、配布物資料の整理をする。</li> <li>・発展学修として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。</li> </ul> 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	新しい時代の保育者論	須藤 麻紀	教育情報出版		税込み2000円
使用テキスト：自由記載					
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤 惇也	ななみ書房	978-4-910973-06-7	税込み1200円
参考書：自由記載					
その他					
備考					

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭（18年）としての実務経験を有する。
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	幼稚園教諭として実務経験（18年）・幼児教育アドバイザーとしての経験（1年）をもつ教員が、保育現場の実際をふまえた授業を行う。

## ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育者の役割に関する理解	保育者像や教師観の変遷を深く理解した上で、今日の保育者に求められる役割について具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者像や教師観の変遷を踏まえた上で、今日の保育者に求められる役割について具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者像や教師観の変遷を踏まえた上で、今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができにくい。
知識・理解	2. 保育者の資質能力・専門性に関する理解	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について深く理解した上で、自身の課題と照らし合わせながら具体的かつ建設的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で、自身の課題と照らし合わせながら具体的かつ建設的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で、自身の課題と照らし合わせながら具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で、具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性についての理解が不十分で、説明もできにくい。
知識・理解	3. 保育者の連携や協働の理解	保育者の連携や協働の重要性について深く理解し、課題等も明らかにした上で、具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解し、課題等も明らかにした上で、具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解した上で、具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解した上で、具体的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性についての理解が不十分で、具体的に説明することができにくい。
知識・理解	4. 保育者の資質向上やキャリア形成に関する理解	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について深く理解し、自身の資質向上やキャリア形成を想定した上で、具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し、自身の資質向上やキャリア形成を想定した上で、具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し、具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し、具体的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性についての理解が不十分で、具体的に説明することができにくい。
思考・問題解決能力	1. 課題発見能力	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて明らかにするとともに、授業で得た情報をもとに自主的に探求することができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて、授業で得た情報をもとに明らかにすることができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて、授業で得た情報を整理して考えることができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて、授業で得た情報を整理することができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて、授業で得た情報を整理することができにくい。

科目名	教育心理学	授業番号	ED201	サブタイトル	
教員	平尾 太亮				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	講義 (対面授業科目)
					必修・選択
					必修
授業概要	教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに、保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学の基本的な概念や理論を知り、教育心理学についての知識を習得する。</li> <li>・心理学的な視点や考え方を、保育・教育の場面でいかせるようにする。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	教育心理学とは？ 教育心理学の意義や目的について理解する。				
第2回	子どもの発達 ピアジェの発達理論等,発達に関する諸理論を参考に子どもの発達を理解することができる。				
第3回	大人の発達 ライフサイクル理論等, 発達の諸理論を参考に大人の発達について理解することができる。				
第4回	学習とは？(1) 学習理論や動機づけについて理解することができる。				
第5回	学習とは？(2) 事例を通して、学習理論の実際について理解し自己効力感の効果や学習生無力感について考えることができる。				
第6回	頭が良いとは？ 知能について、知識獲得や理解の過程、問題解決など諸理論を参考に理解することができる。				
第7回	記憶力が良いとは？ 記憶の方法やワーキングメモリ等の記憶の種類、忘却など諸理論を参考に記憶について理解することができる。				
第8回	性格とは？(1) 性格について、諸理論を参考に理解することができる。				
第9回	性格とは？(2) 自分の性格について知り、自己理解とともに他者理解を深めることができるようになる。				
第10回	集団とは？ 集団の力について理解し、保育現場における集団の成立や相互作用、協働学習を通した集団づくりについて考えることができる。				
第11回	評価とアセスメント 評価とアセスメントについて、諸理論を参考に理解することができる。				
第12回	子どもの心の問題(1) 発達の課題や心身症など、子どもの発達を通してみられる心の問題について理解することができる。				
第13回	子どもの心の問題(2) 事例を通して、子どもの心の問題に理解を深めることができる。				
第14回	カウンセリングとは？ カウンセリング諸理論を通して、カウンセリングの実際に触れることができる。				
第15回	まとめ 授業全体を振り返り、教育心理学の基本的な概念や理論を知り、教育心理学についての知識の定着を図る。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。		
	レポート				
	小テスト	25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する(5%×5回)課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。		
	定期試験	55	全講義終了後、教育心理学における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。		
	その他				
評価の方法：自由記載					
受講の心得	様々な気づきが得られるように、積極的な態度で授業に臨むこと。				
授業外学修	1. 授業内で学修した、教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。 2. 授業内で授業内容の小テストがあるため、その準備をすること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	必要であれば、その都度プリントを配布する。				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載					
その他					
備考					

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	スクールカウンセラー（13年）、医療型障害児入所施設職員（3年）
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	スクールカウンセラー（13年）でのカウンセリング業務を通して、子どもの性格や特性、集団に対してのアセスメントの方法や、子どもの心の問題、カウンセリングについて実例を交えながら教示する。 施設職員の経験（3年）では、生涯発達やライフサイクル、特別支援といった成長・発達に関する知見を伝える。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教育心理学に関する知識	教育心理学に関する具体的 な知識を深く習得している。	教育心理学に関する具体的 な知識を習得している。	教育心理学に関する知識を 習得している。	教育心理学に関する知識の 習得が不十分である。	教育心理学に関する知識が 習得できていない。
思考・問題解決能力	1.課題への取り組み	課題の意図を理解し、教育心 理学の知識を踏まえながら具 体的に自分の意見を記述する ことができる。教育心理学の知 識に即しながら、自分なりの新 たな意見を記述することができ る。	課題の意図を理解し、具体 的に自分の意見を記述するこ とができる。	課題の意図を理解し自分の 意見を述べられるが、具体的 に記述することができない。	課題の意図は理解できている が自分の意見は記述できな い。もしくは課題の意図は理 解できていないが、自分の意 見は記述できる。	課題の意図が理解できていな い。自分の意見が記述できて いない。
思考・問題解決能力	2.グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標 達成に向けて自分の意見を具 体的に述べるができる。グル ープメンバーの意見を取り入 れながら、目標達成に向けて 意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標 達成に向けて自分の意見を 述べるができる。もしくはグル ープメンバーの意見を取り入 れながら、目標達成に向けて 意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標 達成に向けて取り組むことが できている。	グループ活動に参加している が、消極的である。	グループ活動に参加していな い。

科目名	教育相談		授業番号	ED207	サブタイトル				
教員	藤井 裕士								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教育相談・カウンセリングの理論と方法，基本的な応答の仕方について講義や演習を行う。								
到達目標	子どもの発達への援助，保護者への子育て支援の重要性やカウンセリング・マインドの大切さを理解し，子どもや保護者に対する基本的な応答の仕方を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育相談とは 教育相談の全体像について理解する。								
第2回	カウンセリング・マインド カウンセリング・マインドについて演習を通して理解する。								
第3回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（1） カウンセリングの基礎理論（受容,共感,自己一致,傾聴）を,演習を通して理解する。								
第4回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（2） カウンセリングの基礎理論（受容,繰り返し,明確化,支持,質問）を,演習を通して理解する。								
第5回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（3） カウンセリングの基礎理論を,演習（トークンゲーム）を通して理解する。								
第6回	保育者の自己理解 文章完成法,HSPチェックリスト等を用いて自己理解を行う。								
第7回	保育者の自己理解（2） 陰性感情について知り,自身の陰性感情への対処法について考える。								
第8回	保育者のメンタルヘルス 保育者自身のメンタルヘルスについて理解し, ストレスの軽減方法を考える。								
第9回	基礎的対人関係（1） 子育て支援,トラブル解消策,保護者からの相談場面における「言葉の言い換え」について演習を通して理解する。								
第10回	基礎的対人関係（2） 他者と良好な人間関係を形成するための条件として,「他者の視点に立つ」ことを演習を通して理解する。								
第11回	保護者への対応（1） 個人情報保護や子育て支援,面談場面での保護者対応など,保護者への対応の基本事項について理解する。								
第12回	保護者への対応（2） 発達障害などの気になる子どもの保護者の対応について演習を通して理解する。								
第13回	保護者への対応（3） ギフティなどの気になる子どもの保護者の対応について演習を通して理解する。								
第14回	園・地域における専門家との連携による相談・支援 園・地域における専門家や社会資源について理解し, それらの連携や相談・支援について事例検討を通して理解を深める。								
第15回	問題状況への対処 これまでに学修した知識を使って,問題状況への対処方法について考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習への参加などを含めて,授業への意欲的な受講態度によって評価する。						
	意欲	15	振り返りシートへの記述状況から評価する。次回の授業の際に,全体の傾向についてコメントする。						
	最終試験	55	最終的な理解度を評価する。						
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> <li>事前・事後に参考文献等を読むこと。</li> <li>発表や討議に積極的に取り組むこと。</li> <li>配付する資料を整理しておくこと。</li> </ol>								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>予習として,配布された資料を読み,疑問点を明らかにする。</li> <li>復習として,配布された資料を読み授業内容の理解を深める。</li> <li>発展学修として,授業で紹介された参考文献を読む。</li> </ol> 以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	子どもの理解と保育・教育相談	小田豊ほか	みらい						
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。								
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	特別支援学校教諭（14年）の経験から、子どもや保護者に対する相談支援について具体例を交えながら解説する。

## ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	教育相談の目的,カウンセリングの基本理念や方法に関して理解できたか。	教育相談に関する理論,方法,実践例について豊富な知識を持ち,具体例を交えて深い理解を示せる。	基本的な理論や方法は理解しており,実践例を挙げて説明できるが,Aレベルほどの詳細さはない。	教育相談の基本的な理論や方法については理解しているが,具体例の使用が限定的。	基本的な理論や方法の理解に不備があり,実践例を適切に用いることができない。	教育相談の基本的な理論や方法についての理解が不足している。
技能	具体的な教育相談の事例を分析し,適切な対応策を立案できるか。	相談者のニーズを正確に理解し,効果的な支援計画を立案・実施できる。高度なコミュニケーション能力を示す。	相談者のニーズを理解し,適切な支援計画を立案・実施できるが,Aレベルほどの洞察力や創造性はない。	基本的な相談技能は持っているが,複雑なケースに対する対応には限界がある。	相談技能の基本は理解しているが,実践の際に不十分な面が見られる。	相談技能が不足しており,相談者のニーズに適切に対応できない。

科目名	教育・保育課程論	授業番号	EE201	サブタイトル	
教員	藤井 裕士				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期
				授業形態	講義（対面授業科目）
					必修・選択
					必修
授業概要	幼稚園における教育課程、保育所における全体計画の編成、実施、評価、改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容、また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成、実施、評価、改善の基本的な考え方や内容等について講義と演習を行う。				
到達目標	幼稚園における教育課程、保育所における全体計画の編成、実施、評価、改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容、また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成、実施、評価、改善の基本的な考え方や内容等を知り、指導計画等を自分なりに作成できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	めざす子ども像 理想のめざす子ども像を考え、意見交換を行う。				
第2回	めざす子ども像を共有する理由 めざす子ども像を保育者間で共有する理由について知る。 カリキュラムについて知る。				
第3回	園でのよりよい意思決定方法とは 園全体での意思決定の方法論について知る。投票や多数決、対話、トップダウン、ボトムアップなどのメリット、デメリットについて理解する。				
第4回	教育課程・全体的な計画について 教育課程や全体的な計画について理解する。				
第5回	教育課程・全体的な計画、指導計画を考える上で必要なこと 教育課程・全体的な計画、指導計画を考える上での留意事項を理解する。				
第6回	教育課程の編成から長期・短期の指導計画へ 教育課程の編成から長期指導計画、短期指導計画へのつながりを理解する。				
第7回	指導計画の実践 指導計画の実践と改善について理解する。				
第8回	保育実践に関するPDCA 自身の保育実践を振り返ると共に、実行可能な改善の計画を考える。				
第9回	カリキュラム・マネジメントの具体 附属こども園の事例を中心に、先行事例からカリキュラム・マネジメントの具体例について知る。				
第10回	教育課程・全体的な計画に関わる物的環境・人的環境の検討① マンガートを活用して、理想のめざす子ども像を実現する、理想の園の条件を考える。				
第11回	教育課程・全体的な計画に関わる物的環境・人的環境の検討② 理想のめざす子ども像を実現する、理想の園の条件をまとめる。				
第12回	理想の園の指導計画の作成① めざす子ども像との関連に焦点化し、個人で指導計画（日案or部分指導案）のねらいや内容を設定する。				
第13回	理想の園の指導計画の作成② めざす子ども像との関連に焦点化し、個人で指導計画（日案or部分指導案）のねらいや内容を設定する。				
第14回	指導案の発表・意見交換 めざす子ども像と指導計画の関連性を示しながら、発表・意見交換を行う。				
第15回	まとめ 教育課程、全体的な計画の編成と実践・評価への一体的な取組について理解する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取組姿勢／態度	30	演習を含めた、意欲的な受講態度によって評価する。		
	中間レポート	20	自身の保育実践を振り返り、PDCAサイクルの観点からレポートを作成する。（課題提出後の授業で全体的な傾向についてフィードバックする）		
	最終レポート	50	提出された課題から、授業内容が理解できているか、自身の考えを表現できているかを評価する。（課題提出後の授業で全体的な傾向についてフィードバックする）		
評価の方法：	自由記載				
受講の心得	1 事前・事後に参考文献を読むこと。 2 課題について追究したことや自分の考えをまとめ、レポートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。				
授業外学修	1 予習として、配布された資料のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、配布された資料を読み授業内容の理解を深める。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載					
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
その他					
備考					

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	特別支援学校幼稚部（10年）での経験を基に、具体的な事例なども踏まえながら解説を行う。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 教育・保育課程を計画、実施、評価、改善する過程での基本的な考え方や手法を理解している。	教育・保育課程の基本理念、目的、内容について深い理解を示し、具体的な例を用いて複雑な概念を説明できる。	基本理念や目的は正確に理解しており、内容についても具体的な知識があるが、Aレベルほどの深い洞察は示せない。	基本的な理念、目的、内容の理解があり、簡単な説明ができるが、深い分析や批判的な考察には至らない。	理念や目的の理解に誤解が見られ、内容についての知識も表面的である。	教育・保育課程の基本理念や目的の理解が不足しており、重要な内容についての知識がほとんどない。
知識・理解	2. めざす子ども像の達成を意識した指導計画を作成することができる。	めざす子ども像に基づいた包括的かつ創造的な指導計画を作成。計画は具体的、実践的であり、多様な学習ニーズに応える。	めざす子ども像を適切に理解し、それに基づく実践的な指導計画を作成。しかし、Aレベルほどの詳細さや創造性はない。	めざす子ども像の達成に向けた指導計画を作成できるが、応用や多様性に欠ける場合がある。	指導計画には目標が含まれているが、計画の具体性や実践性に不足。めざす子ども像の達成に必要な要素が欠けている。	めざす子ども像に対する理解不足から、適切な指導計画を作成できない。計画には目標の達成に向けた具体的な方策が不足している。
思考・問題解決能力	1. 与えられた目的や条件の下で、効果的な教育・保育計画を立案できる。	実践的な課題に対して独自の解決策を提案し、その実施計画を詳細に立案できる。批判的思考と創造性を見せる。	具体的な課題に対して適切な解決策を提案でき、その実施についても計画を立てることができるが、Aレベルのような独創性はやや欠ける。	一般的な問題解決のアプローチを理解しており、基本的な解決策を提案できるが、複雑な問題に対する深い洞察には至らない。	問題解決のアプローチが一部理解できているが、具体的な計画立案や実施の方法に誤りがある。	問題を認識することはできるが、効果的な解決策の提案や計画立案ができない。

科目名	保育内容総論 1クラス			授業番号	EE202A	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	必修
授業概要	アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また、保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。								
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている、園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。 教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。 以上のことを目的とする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。								
第2回	子どもの遊びを分析して、どのような経験しているのかを話し合う。								
第3回	教育・保育における環境を通じた実践について学ぶ。								
第4回	環境構成を分析して、物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。								
第5回	要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。								
第6回	子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。								
第7回	支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。								
第8回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。								
第9回	活動を分析し、保育の多様な展開について具体的に学ぶ。								
第10回	教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。								
第11回	教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。								
第12回	運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。								
第13回	「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。								
第14回	模擬保育を目指して指導案を作成する。								
第15回	模擬保育をグループで実施する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度		10	意欲的かつ主体的な受講態度、課題に対して協働する態度、講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。						
レポート		10	講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。						
小テスト									
定期試験		80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。						
その他									
評価の方法：自由記載									
受講の心得	テキストをよく読み、内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。 グループワークを中心とするので、積極的態で受講すること。 講義を通して、少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。								
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白しておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 1週間あたり5時間を目安とする。								
使用テキスト									
使用テキスト：自由記載									
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN			備考		
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤惇也・山本房子・請川滋大	ななみ書房		978-4-910973-06-7			1,320円		
参考書：自由記載									
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼稚園教育要領および 保育所保育指針に基づいて 保育の内容を理解できている。	幼稚園教育要領や保育所保 育指針の内容に関して高度な 知識を有し、保育の計画につ いて具体的に考えることができ る。	幼稚園教育要領や保育所保 育指針の内容に関して高度 な知識を有し、保育の計画 について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保 育指針の内容に関して知識 を有し、保育の計画につい て考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保 育指針の内容に関して知識 を有してはいるが、保育の 計画を考えるには至らない場 合がある。	幼稚園教育要領や保育所保 育指針の内容に関して知識 を有してはいるが、保育の 計画を考えるには至らない。
知識・理解	2. 乳幼児の発達に即した保 育内容の基本的な考え方を 理解できている。	乳幼児の発達に関して高度な 知識を有し、発達に即した保 育計画について具体的に考え ることができる。	乳幼児の発達に関して高度 な知識を有し、発達に即した 保育計画について考えること ができる。	乳幼児の発達に関して知識 を有し、発達に即した保育計 画について考えることができ る。	乳幼児の発達に関して知識 を有してはいるが、発達に即 した保育計画にまで考えが及ば ない場合がある。	乳幼児の発達に関して知識 を有してはいるが、発達に即 した保育計画にまで考えが及ば ない。
知識・理解	3. 環境を通して行う保育の 内容を理解できている。	環境を通して行う保育に関し て高度な知識を有し、環境の 構成について具体的に考える ことができる。	環境を通して行う保育に関し て高度な知識を有し、環境の 構成について考えることができ る。	環境を通して行う保育に関し て知識を有し、環境の構成に ついて考えることができる。	環境を通して行う保育に関し て知識を有してはいるが、環 境の構成にまで考えが及ばな い場合がある。	環境を通して行う保育に関し て知識を有してはいるが、環 境の構成にまで考えが及ばな い。
知識・理解	4. 生活や遊びによる総合的 な保育の内容を理解できている。	生活や遊びによる総合的な保 育の内容に関して高度な知識 を有し、保育の計画について 具体的に考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保 育の内容に関して高度な知識 を有し、保育の計画につい て考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保 育の内容に関して知識を有し 、保育の計画について考え ることができる。	生活や遊びによる総合的な保 育の内容に関して知識を有し てはいるが、保育の計画を考 えるには至らない場合がある。	生活や遊びによる総合的な保 育の内容に関して知識を有し てはいるが、保育の計画を考 えるには至らない。
知識・理解	5. 家庭や地域等との連携を ふまえた保育のあり方を理解 できている。	家庭や地域等との連携に関し て高度な知識を有し、家庭支 援や地域連携の方法について 具体的に考えることができる。	家庭や地域等との連携に関し て高度な知識を有し、家庭支 援や地域連携の方法につい て考えることができる。	家庭や地域等との連携に関し て知識を有し、家庭支援や地 域連携の方法について考える ことができる。	家庭や地域等との連携に関し て知識を有してはいるが、家 庭支援や地域連携の方法に まで考えが及ばない場合があ る。	家庭や地域等との連携に関し て知識を有してはいるが、家 庭支援や地域連携の方法に まで考えが及ばない。
知識・理解	6. 小学校との連携や接続を ふまえた保育のあり方を理解 できている。	小学校との連携や接続に関し て高度な知識を有し、子ども の就学を援助できる保育計画 について具体的に考えることが できる。	小学校との連携や接続に関し て高度な知識を有し、子ども の就学を援助できる保育計 画について考えることができ る。	小学校との連携や接続に関し て知識を有し、子どもの就学 を援助できる保育計画につい て考えることができる。	小学校との連携や接続に関し て知識を有してはいるが、子 どもの就学を援助できる保育計 画にまで考えが及ばない場合 がある。	小学校との連携や接続に関し て知識を有してはいるが、子 どもの就学を援助できる保育計 画にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	1. 適切な情報処理と知識 の応用に基づく有機的な判断 ができる。	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益とは 何かを理解した上で、高度な 知識を活用して具体的な保育 計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益と は何かを理解した上で、高度 な知識を活用して保育計画 を考えることができる。	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益と は何かを理解した上で、知識 を活用して保育計画を考 えることができる。	保育内容に関する情報を精 査し、子どもの利益とは何かを 理解してはいるが、保育の計 画を考えるには至らない場合 がある。	保育内容に関する情報を精 査し、子どもの利益とは何かを 理解してはいるが、保育の計 画を考えるには至らない。

科目名	(保育内容)健康 1クラス		授業番号	EE203A	サブタイトル				
教員	土田 豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	必修
授業概要	乳幼児期の発育発達の過程や個人差に合わせた支援の必要性や、現代社会における子どものからだと心の育ちに関する問題点について学習し、乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。								
到達目標	現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し、その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	領域「健康」とは子どものからだと心の現状について様々なデータを見ながら、客観的かつ具体的に把握する。								
第2回	「幼児期における運動遊びの必要性」なぜ、幼児期に体を動かすことが必要なのかについて理論的に理解する。								
第3回	「運動遊びと健康 (1)」集団遊びいろいろなジャンケン遊びを通して、子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。								
第4回	「運動遊びと健康 (2)」身近にある材料である風船や新聞紙を使った遊びを通して、子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。								
第5回	「運動遊びと健康 (3)」サーキット遊びを通して、子どもたちが様々な動きを獲得できる環境について理解する。								
第6回	「運動遊びと健康 (4)」リバーシーゲームの体験を通して、楽しく体を動かすことの大切さを理解する。								
第7回	「運動遊びと健康 (5)」ボールを使ったサーキット遊びを通して、物を操作する動きを獲得できる環境について理解する。								
第8回	「運動遊びと健康 (6)」伝承遊びの体験を通して、伝承遊びで高められる力について理解する。								
第9回	「運動遊びと健康 (7)」いろいろな玉入れ遊び体験を通して、遊びのバリエーションの広げ方について理解する。								
第10回	「運動遊びと健康 (8)」いろいろな陣取り遊び体験を通して、遊びのバリエーションの広げ方について理解する。								
第11回	「運動遊びと健康 (9)」リズムダンスや手遊びの体験を通して、楽しく体を動かしたくなる環境について理解する。								
第12回	「模擬保育 運動会の計画と準備」保育の現場で行われる運動会をイメージしながら種目や内容、役割分担等について計画する。								
第13回	「模擬保育 運動会(1)」自分たちが計画した運動会を実践し、振り返りを含めて今後に生かせるようにする。								
第14回	「模擬保育 運動会(2)」自分たちが計画した運動会を実践し、振り返りを含めて今後に生かせるようにする。								
第15回	「家庭との連携・まとめ」運動遊びの必要性について園での取り組みに加え、家庭との連携の仕方について考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組みしていない場合は、減点対象とする。一方、授業中の発表やグループ内での発表状況等、積極的な言動が確認できた場合は、加点対象とする。						
	レポート	30	授業で体験したことを踏まえ、実際の保育場面を想像しながら述べていること。保育現場で、子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合、内容に応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	50	領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して、模擬保育を実施し、その理解度や保育への展開具合を得点化する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動着を着用する</li> <li>・室内用シューズを履く</li> <li>・貴重品は自己管理する</li> <li>・装飾品は身につけない（髪は結わえる）</li> <li>・全員協力の上、準備・片付けをする</li> <li>・日常生活においても課題を見つけて積極的に取り組む</li> </ul>								
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり、新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。</li> <li>・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して、保育現場で行われている運動遊びについて、対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。</li> <li>・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め、指導案として反映できるようにすること。</li> <li>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</li> </ul>								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	幼児期運動指針ガイドブック	文部科学省	サン・ライフ企画	978-4-904011-47-8	1300				
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭 10年
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	学校現場での経験を生かして、幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 運動習慣づくりの重要性	幼児期から運動習慣を形成していきことの重要性について、発達の観点から十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができる。	幼児期から運動習慣を形成していきことの重要性を十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができる。	幼児期から運動習慣を形成していきことの重要性を概ね理解し、その解決策について自分の考えを発言することができる。	幼児期から運動習慣を形成していきことの重要性をある程度理解できているが、その解決策について考え、発言することができていない。	幼児期から運動習慣を形成していきことの重要性が理解できず、発言もできない。
知識・理解	2. 幼児期に経験することが望ましい運動	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、授業の中で実践することができる。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、実践することができる。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて授業を通して、ある程度理解し、様々な運動に興味を持って実践することができる。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについてある程度理解できているが、自らからだを動かすことに対する興味を持つことができていない。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについての理解ができず、自らからだを動かすこともできていない。
技能	1. 身の回りにある遊具や道具を活用した運動遊びの創造	身の回りにある遊具や道具を活用し、子どもたちが意欲的に取り組むことができる環境を考えながら、運動遊びを実践することができる。	身の回りにある遊具や道具を活用し、自分なりのアレンジを加えながら、運動遊びを実践することができる。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができる。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践しようとしているが、行動に写すことができていない。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができていない。
技能	2. 子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びの創造	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、興味関心を引き出す手立ても考えながら、運動遊びの難易度調節ができています。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、動きも想像しながら、運動遊びの難易度調節ができています。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、運動遊びの難易度調節ができています。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて運動遊びを考えることはできているが、難易度調節はできていない。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて運動遊びを考え、実践することができていない。

科目名	(保育内容) 人間関係 1クラス			授業番号	EE204A	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	必修
授業概要	幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。								
到達目標	幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	現代社会と幼児の人間関係を相対的に捉えて理解する								
第2回	家庭や地域の人間関係の実情を確認する								
第3回	3歳未満児における人間関係の発達 (1) -発達段階に応じた子どもの姿を確認する-								
第4回	3歳未満児における人間関係の発達 (2) -愛着を形成する人間関係のあり方を学ぶ-								
第5回	幼児期の遊びや生活の中で見られる他者と関わる力の育ちを学ぶ								
第6回	幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ちを事例から考える								
第7回	乳幼児期の自立心の育ち (1) -自我の形成を事例から理解する-								
第8回	乳幼児期の自立心の育ち (2) -大人と子どもの関係性の変化を学ぶ-								
第9回	幼児期の協同性の育ち (1) -人間関係を基盤にしたウェルビーイングを学ぶ-								
第10回	幼児期の協同性の育ち (2) -児童期を見据えた人格形成の基礎としての人間関係を学ぶ-								
第11回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち (1) -道徳的な発達段階を事例から学ぶ-								
第12回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち (2) -道徳的な発達段階をワークショップから学ぶ-								
第13回	乳幼児期の人間関係のひろがり-居場所の拡大に伴う価値観の形成や変化を学ぶ-								
第14回	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり-全人格形成の基礎的概念として人間関係を位置付ける-								
第15回	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係-現代的課題をふまえたアントレプレナーシップに関する捉え方を学ぶ-								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合		評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度	10		授業内でのワークショップ等への参加態度および授業内課題への取り組み方を評価する。						
レポート	10		講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。						
小テスト									
定期試験	80		子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。						
その他									
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	テキストや配付資料についてはよく読み、内容を把握し、授業で学んだことを整理しておくこと。 講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。								
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白しておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：	自由記載								
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
新・保育と人間関係-理論と実践をつなぐために-	柏まり・小林みどり	嵯峨野書院	978-7823-0621-5	2,475円					
参考書：	自由記載								
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育者と幼児の人間関係について理解できている。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有しているが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有しているが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	2. 保育者と保護者の人間関係について理解できている。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	3. 幼児同士の人間関係について理解できている。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について具体的に考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有しているが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない場合がある。	幼児同士の人間関係に関して知識を有しているが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	4. 幼児と保護者の人間関係について理解できている。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について具体的に考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない場合がある。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	1. 適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	1. 適切な言葉の活用ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を十分示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない場合がある。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない。
技能	2. 手遊びや手話歌の実践ができる。	その場の雰囲気や文脈に沿う手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等の音程やリズムが曖昧なまま実践している。
技能	3. 対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。

科目名	(保育内容) 環境 1クラス	授業番号	EE205A	サブタイトル	
教員	清水 憲志				
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	演習 (対面授業科目)
					必修・選択
					必修
授業概要	子どもの発達を環境とかかわる力の側面から学ぶ。実践例、ビデオ視聴、保育現場の観察、ネイチャーゲーム等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び、指導力・実践力を身につけることを目指す。				
到達目標	子どもと環境とかかわりや子どもの育ちを理解し、具体的な保育の環境のあり方とその考え方、教師の援助のあり方について学ぶことで、環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	保育と環境 …保育における環境の意味を理解しよう。				
第2回	領域「環境」の捉え方と考え方 …領域「環境」について考えてみよう。				
第3回	保育環境の構成 …環境を構成する理由を知ろう。				
第4回	人的環境について …保育現場(園長・クラス担任等)の先生から話を聞いて人的環境の意味を知ろう。				
第5回	豊かな生活を育む環境をデザインする …様々な環境(自然)を知ろう。				
第6回	泥団子を作ろう …泥団子を作って楽しもう。				
第7回	泥団子を極めよう …泥団子の理論を理解して、実践してみよう。				
第8回	ごっこ遊びについて …ごっこ遊びの重要性を知ろう。				
第9回	遊びにかかわる指導を考えよう …指導案を立案して保育の実践をイメージしよう。				
第10回	生き物や植物、自然の事象に関心を持つ食育、栽培活動について …食育及び栽培計画を作成しよう。				
第11回	作品展について …子どもの色々な作品を見て、感性を磨こう。				
第12回	フォトブック鑑賞会 …それぞれが作ったフォトブックを見ながら、感性を高めよう				
第13回	砂・水遊びの指導を考えよう(1)実践編 …水遊びを実践してみよう。				
第14回	砂・水遊びの指導を考えよう(2)理論編 …砂・水遊びの意味を知ろう。				
第15回	子どもを守る安全な環境について …保育における安全な環境について考えよう。				
授業計画 備考2					
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。		
	その他	30	フォトブックの作成(自然物)		
評価の方法：自由記載	<p>フォトブックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真10枚以上(10種類以上)(1点)</li> <li>・表紙にタイトルをつける(1点)</li> <li>・裏表紙に学籍番号・名前を書く(1点)</li> <li>・本形式であること(閉じ紐、リング、ファイル、リボン、ノートetc)(1点)</li> <li>・大きき15cm×18cm以上(1点)</li> </ul> <p>◎ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがみてわかりやすいこと(10点)</li> <li>・統一感を持って作成してあること(5点)</li> <li>・自分なりの工夫がされていること(10点)</li> </ul> <p>※採点后、成績を個別に開示し、授業内で振り返りを行う。</p>				
受講の心得	日頃の生活の中で、四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 地域の自然に興味を持ち、色合いや生長を楽しむこと。				
授業外学修	<p>1. 復習として、ノートの整理を行う。</p> <p>2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>				
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布します。				
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府，文部科学省，厚生労働省）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立保育所保育士（8年），附属幼稚園教諭（1年），ネイチャーゲームリーダー（3年），ネイチャーゲームインストラクター（2年）
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	有
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	保育所園長及びこども園長等
実務経験を いかけた教育 内容	子どもの育ちを豊かにする環境について，実務経験【公立保育所保育士（8年），附属幼稚園教諭（1年）】を生かして，実践事例を取り入れ，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ，指導の大切さを学ぶとともに，学生自身が体験することで感動体験を味わい，保育者としての資質が向上できるような援助する。また，自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（3年），ネイチャーゲームインストラクター（2年）】を行い，自然を身近なものとして捉えられるようにする。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 環境が及ぼす影響を理解し、想像力豊かに構成できる。	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成するイメージができる。	発達の連続性を意識して、環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがあまりできる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがしにくい。
知識・理解	2. 人的環境として相応しい、自然への知識・興味・関心を持ち、発達に応じて援助できる。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合い、子どもの気持ちを考え、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合っており、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がない。

科目名	(保育内容) 言葉 1クラス	授業番号	EE206A	サブタイトル	
教員	山本 房子				
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	演習 (対面授業科目)
					必修・選択
					必修
授業概要	子どもの言葉の発達に関する知識及び保育内容における領域「言葉」について理解する。子どもの言葉を育てる児童文化財について知るとともに、絵本の読み聞かせをしたり、紙芝居、ペープサートなどを体験し作成したりすることで、子どもの言葉の育ちを支える環境構成や保育者のかかわりについて学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における、ねらい・内容・留意事項を理解できる。</li> <li>・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。</li> <li>・絵本、ペープサートなどの児童文化財の実践を行うことができる。</li> <li>・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	子どもと言葉① 言葉の意義と主な機能 (コミュニケーション・思考・行動調整) について理解する				
第2回	子どもと言葉② 言葉を獲得するために必要な基礎について理解する				
第3回	子どもと言葉③ 前言語期における身近な大人の関わり的重要性及び乳児の言葉の特徴と発達について理解する				
第4回	子どもと言葉④ 幼児の言葉の特徴と発達について理解する				
第5回	幼児教育における言葉 領域「言葉」のねらいと内容について理解する				
第6回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財① 児童文化財の保育における役割について理解する 身近な児童文化財である絵本や紙芝居の特性について知る				
第7回	絵本の読み聞かせをする (模擬保育をする)				
第8回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財② 様々な児童文化財があることを知る。 ペープサート、エプロンシアター、パネルシアターなどを体験する				
第9回	言葉に対する感覚とは 様々な言葉遊びや日本語の表現に触れ、言葉そのものも面白さや楽しさを知る				
第10回	保育で用いるペープサートを作る① ペープサートの基本的な作り方を知り、題材を選ぶ				
第11回	保育で用いるペープサートを作る② 保育現場での実践を想定し、作ったペープサートが子どもにどのように見えるかを意識しながら工夫して作る				
第12回	ペープサートを演じる (模擬保育をする)				
第13回	子どもの言葉を育む保育の実際について映像資料から考える				
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」の視点から小学校との接続について考える				
第15回	特別支援、多文化共生の視点から言葉の発達に関する諸問題について考える				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業における発表や参加態度など、ルーブリックをもとに評価する。		
	定期試験	50	到達目標に関する基本的な知識について試験を行い、理解度を評価する。		
	その他	20	絵本の読み聞かせに必要な技術や知識に気付けたかどうかを評価する。(10%) ペープサートを作成し演じる。 保育現場での実践を想定し、子どもの発達段階や興味関心、子どもの見え方等を意識して作成、演じることができたかどうかを評価する。(10%)		
評価の方法:	自由記載				
受講の心得	絵本の読み聞かせやペープサート等の実践発表については、授業時間外における教材研究、発表練習が必要となるが、積極的に取り組むこと。				
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 予習として教科書の授業にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>2 復習としてノートの記入や資料の整理をする。</li> <li>3 発展学修として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。</li> </ol> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>				

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
指導法もいっしょに学ぶ保育内容「言葉」	浅井 拓久也 編著	教育情報出版	978-4-909378-74-3	定価2090円
使用テキスト:自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	文部科学省 厚生労働省 内閣府	チャイルド本社	978-4805402580	500円+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭（18年）としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（18年）をもつ教員が、事例や実践をもとに領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 言葉の意義や機能	人間にとっての言葉の意義や機能について、乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて、具体的かつ論理的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について、乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について具体的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について、説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について、説明することができにくい。
知識・理解	2. 領域「言葉」に関する知識	領域「言葉」に関する具体的な知識を深く修得している。	領域「言葉」に関する具体的な知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識の習得が不十分である。	領域「言葉」に関する知識の習得ができていない。
知識・理解	3. 保育者の姿勢や援助	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し、具体的、建設的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し、具体的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し、適切に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解が不十分であるため、適切に述べることができにくい。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解できていないため述べることができない。
技能	1. 絵本の読み聞かせ	絵本の選書の理由、読み聞かせのねらい、導入方法など、保育における読み聞かせのポイントをつまみ、かつ、事前に繰り返し練習した上で、適切に読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由、読み聞かせのねらい、導入方法など、保育における読み聞かせのポイントをつまみ、かつ事前に繰り返し練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由、読み聞かせのねらい、導入方法など、保育における読み聞かせのポイントをつまみ、かつ事前に練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由、読み聞かせのねらい、導入方法など、保育における読み聞かせのポイントをつまみ、かつ事前に練習しているが、事前の練習が不十分である。	保育における読み聞かせのポイントの理解が不十分であるとともに、事前の練習をしていない。
技能	2. ペープサートの作成、発表	ペープサートの題材の理由、ねらい、導入方法などのポイントをつまみ、かつ、事前に繰り返し練習した上で、適切にペープサートを演じることができる。	ペープサートの題材の理由、ねらい、導入方法などのポイントをつまみ、かつ事前に繰り返し練習した上で演じることができる。	ペープサートの題材の理由、ねらい、導入方法などのポイントをつまみ、かつ事前に練習した上で演じることができる。	ペープサートの題材の理由、ねらい、導入方法などのポイントをつまみ、かつ事前に練習しているが、事前の練習が不十分である。	ペープサートの題材の理由、ねらい、導入方法などのポイントの理解が不十分であるとともに、事前の練習をしていない。

科目名	(保育内容) 表現 1クラス			授業番号	EE207A	サブタイトル			
教員	鳥越 亜矢、武田 恵美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	必修
授業概要	子どもの成長過程における多様な表現に関して、幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら、創造性豊かに楽しく表現し、創作体験を重ねることにより、保育者としての豊かな感性を磨くとともに創造性を高め、協働性・指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。								
到達目標	感じたことを色や形で表現することができること、制作物を使った表現ができること。また、音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい、幼児の発達特性に応じた指導ができるようになること、保育者としての豊かな感性を磨くとともに創造性を高め、協働性・指導力・実践力を身につけることなどを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	1回～3回 朗読劇と音環境 3回～9回 ブラックライトを使った音・光・形の競演 10回～13回 手作り教材で音やリズムを表現する 14回～15回 音との出会いを楽しみ、感じ、表す体験 授業への主体的な参加および協働性を養う目的でグループ活動を行なう。また、この授業の経験は2年後後期の「保育内容の理解と方法D」における課題作成の土台になる。								
回	概要						担当		
第1回	朗読劇と音環境1 幼児を対象にした朗読劇にふさわしい音作りをするために、絵本の分析を行う。ストーリーを音で表現するために必要になるものを、場面ごとにオノマトペ、実際の音、音楽などに分類する。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第2回	朗読劇と音環境 2 幼児を対象にした朗読劇にふさわしい音作りをするために、モノを使った効果音作りや、アプリケーションを用いてフリー素材の楽曲の編集作業を行う。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第3回	朗読劇の音環境 3 本の朗読に合わせて編集した楽曲や物を使った効果音を流し、グループ相互に作成した朗読劇を鑑賞する。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第4回	ブラックライトを使った音・光・形の競演1：概要の理解 ブラックライトやそれを使った舞台表現について参考資料を視聴し、構想・制作・練習・発表までの説明を受けて概要を理解する。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第5回	ブラックライトを使った音・光・形の競演2：制作・練習 音楽ホールにブラックライトを設置して、光るものをもって舞台上で動く体験をする。教室で製作を行い、練習は音楽ホールで行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などをいろいろと試行する。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第6回	ブラックライトを使った音・光・形の競演 3：製作と練習 第5回目の経験を踏まえて教室での製作の仕上げと随時音楽ホールでの練習を行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などのさらなる検討を行う。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第7回	ブラックライトを使った音・光・形の競演 4：中間発表・手直し 音楽ホールにて全グループによる通し練習を行った後、上演に向けた改善点を見出す。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第8回	ブラックライトを使った音・光・形の競演 5：リハーサル・手直し 音楽ホールにてリハーサルを行う。グループごとに最終調整や練習を行い、表現に磨きをかける。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第9回	ブラックライトを使った音・光・形の競演 6：上演 (音楽ホール) と振り返り 音楽ホールにて上演する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。 ・工夫したところ、自他の発表で面白いと感じたこととその理由、改善点など。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第10回	手作り教材で音やリズムを表現する 1 保育教材「タップリン」の素材さがしと作成 ブラックライトを使った音・光・形の競演の振り返りについて総評としてのコメントを教員から聞く。 音やリズム遊びを楽しむ保育教材について紹介し、手袋の指先にボタンなどを縫い付けるなどで固いものを取り付ける。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第11回	手作り教材で音やリズムを表現する 2 タップリンの作成と演奏に向けて 作成の続きのほか、何をたたくか素材を探したりたたき方を試したりするほか、リズムや曲に合わせた練習をする。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第12回	手作り教材で音やリズムを表現する 3 タップリンを用いた演奏に向けて 曲に合わせたステージへの入退場方法を考えたり、たたくものやたたき方を工夫したりして表現としての質が高まるよう練習する。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第13回	手作り教材で音やリズムを表現する 4 タップリンを用いた演奏と振り返り リハーサル後に上演する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。 ・工夫したところ、自他の発表で面白いと感じたこととその理由、改善点。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第14回	音を楽しむ体験 音との意外な出会いを楽しみ、様々な楽器や物を使い、簡単な曲を演奏する。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
第15回	音を重ねて楽しむ体験 今まで使った様々な楽器や物を使い、リズムや音を重ねて簡単な曲を演奏する。						鳥越 亜矢、武田 恵美		
授業計画 備考2									
評価の方法	種別								
	種別		割合		評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		40		授業中の課題活動について、ルーブリックに基づき評価する。				
	小テスト (舞台等における発表)		40		舞台等におけるグループ発表について、主題・構成・表現・制作物の観点から評価する。発表後には総評として教員がコメントする。				
	その他 (製作した成果物の評価)		20		個人で制作した課題については、課題意図の理解、丁寧さ、発想、工夫等の観点から評価する。				
評価の方法：自由記載	授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず、個人として率先して、意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また、実技発表においては準備段階からの全体の流れを振り返り、評価をフィードバックする。								
受講の心得	課題に対して主体的・創造的な姿勢で、意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。使用した道具・用具の片付け、清掃をきちんとすること。また、発表の場に対し積極的に取り組み、音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。								
授業外学修	授業で学んだ成果を元に、週当たり1時間以上予習復習すること。 予習として授業内容に関連する情報収集を行い、他者に還元する姿勢を持ち、復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。								
使用テキスト	書名								
	著者		出版社		ISBN		備考		
使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。								

参考図書		書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載						
その他						
備考						
注意事項						
担当教員の 実務経験の有無	無					
担当教員の 実務経験						
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無					
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者						
実務経験を いかした教育 内容						

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	評価の観点				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児の発達特性に応じた 表現活動	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた表現活動を具体的に考えることができる。	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解して、表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解しているが、それに応じた表現活動を考えるに至らない場合がある。	幼児の発達特性の理解が浅く、それに応じた表現活動を考えるに至らない。
思考・問題解決能力	1. 視覚的・聴覚的情報を 活用した表現活動	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力に長けており、それらを効果的に活用して、新たな表現の創造ができる。	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、新たな表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力はあるが、表現においては他者を模倣することが多い。	視覚的・聴覚的情報をうまく活用できず、表現に結びつかない。
技能	1. 感じたことの表現	感じた色々なことを、示された表現方法に加えて様々な方法で十分に表現することができる。	感じた色々なことを、示された表現方法に加えて様々な方法で表現することができる。	示された表現方法で感じたことを表現することができる。	示された表現方法ではないが、何らかの形で感じたことを表現することができる。	表現方法が示されていても、感じたことを表現することに結びつかない。
態度	1. 課題への向き合い方	課題意図を十分理解して取り組み、ほぼ毎回自分なりの知見や深く考えた意見を発表、または記述できる。	課題意図を十分理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表、または記述できる。	課題意図を大体理解して取り組み、時折は自分なりの知見や考えた意見を発表、または記述できる。	課題意図の理解はある程度できるが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表、または記述できない。
態度	2. グループ活動での行動	リーダーシップ、メンバーシップを適切に発揮できる。また、グループで達成すべき目標に対して率先して積極的に取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮できる。また、グループで達成すべき目標に対して積極的に取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップを概ね発揮できる。また、グループで達成すべき目標に対して取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップの発揮がやや不十分。グループで達成すべき目標への取り組みもやや不十分。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮しない。そのうえ、グループで達成すべき目標に取り組まない。

科目名	特別支援教育入門 1クラス	授業番号	EE212A	サブタイトル	
教員	平尾 太亮				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	演習 (対面授業科目)
					必修・選択
					必修
授業概要	特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに、教育・保育をする上で必要な様々な障がいについて知り、個別的な教育的ニーズを把握、他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。				
到達目標	<p>・障がい等、特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。</p> <p>・特別な支援を要する子どもへの教育や保育、支援の方法を知り、実際に支援する際の方策を提示し、実施することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	特別支援教育とは ノーマライゼーションやインクルーシブ教育などを中心に、「特別支援教育」の意義と目的について理解する。				
第2回	障がいの意味と理解、特別支援教育の歴史の変遷 「障がい」について我が国と国際的な捉え（ICF）を理解し、特別支援教育の歴史の変遷について知る。 ICD-10やDSM-5に基づく、障がいの意味について理解する。				
第3回	身体障がい児への理解と支援 身体障がいや重度・重複障がい（重症心身障がい）の定義を知り、支援方法を具体的に理解する。				
第4回	知的障がいの理解 知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。				
第5回	知的障がい児への支援 知的障がい児（ダウン症含む）に対する支援方法を具体的に理解する。				
第6回	発達障害の理解、ASDの理解 発達障がいとASDの定義と具体的な特徴を知る。				
第7回	ASD児への支援 ASD児に対する支援方法を具体的に理解する。				
第8回	ADHDの理解、ADHD児への支援 ADHDの定義を知り、支援方法を具体的に理解する。				
第9回	LDの理解、LD児への支援 LD（ディスレキシア等含む）の定義を知り、支援方法を具体的に理解する。				
第10回	個別指導計画の作成と記録および評価 個別指導計画の作成や、記録及び評価のポイントを理解する。 学習支援や行動支援、対人関係の支援や生活支援の視点を踏まえながら、子どもの長期目標や短期目標をたてられるようになる。				
第11回	子どもの発達をうながす生活や遊びの環境 障がいを持つ子どもの発達をうながす環境の作り方を理解する。				
第12回	地域の専門機関や小学校との連携 特別支援学校や特別支援学級、通級による指導等の内容を通して、多職種との連携について知る。				
第13回	保護者や家族に対する理解と支援 保護者や家族の障がいの受容プロセスや支援方法について理解する。				
第14回	特別な配慮を必要とする様々な子ども 貧困児や母国語の異なる子どもなど、特別な配慮を必要とする様々な子どもの現状について理解する。 医療的ケア児や二次障がい等、多様な状況を理解する。				
第15回	まとめ 全講義を振り返り、障がい等、特別な支援を要する事柄についての知識の定着を図る。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	5	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。		
	レポート				
	小テスト	35	講義内容の理解度、定着度を評価する。		
	定期試験	35	全講義終了後、障害児保育における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。		
	その他	25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回） 課題については、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。		
評価の方法：自由記載					
受講の心得	様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。				
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内で学修した、障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。</li> <li>2. 授業内で授業内容の小テストがあるため、その準備をすること。</li> <li>3. 教科書のうち、次の講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにすること。</li> </ol> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	必要に応じて資料を配布する。				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載					
その他					

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年）、スクールカウンセラー（14年）
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	施設職員の経験（3年）を活かし、各障がいに対して具体的な事例を交えながら教示する。 カウンセリング経験（14年）から、様々な困難感を抱え、特別な支援を必要としている子どもや、特別な支援を必要とする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について、具体的な事例を通して考えることで、実践力を養う。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 特別支援に関する知識	特別支援に関する具体的な知識を深く習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識の習得が不十分である。	特別支援に関する知識が習得できていない。
技能	1. 特別支援に関する技能	個々の状態や特性に合わせた支援方法を具体的に論述・実施することができる。	個々の状態や特性に合わせた支援方法を論述・実施することができる。	個々の状態や特性に合わせた支援方法を論述することができる。もしくは、支援方法を実施することができる。	個々の状態や特性に合わせた支援方法を具体的に論述・実施できない。	個々の状態や特性に合わせた支援方法を論述・実施できない。

科目名	健康の指導法 1クラス		授業番号	EE215A	サブタイトル						
教員	荒谷 友里恵、土田 豊										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	幼児の心身の健康と安全、遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め、グループワークなどで意見交換を積極的に行う。										
到達目標	<p>幼児の発達や学びの過程を理解し、日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることができる。</p> <p>幼児の発達や学びの過程を理解し、生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることができる。</p> <p>幼児の発達や学びの過程を理解し、発達を促し安全に配慮した遊びの指導法正しく理解し、具体策を考えることができる。</p> <p>幼児の興味を引き出し指導の効果をより高くするため、様々なツールを用いた指導法を計画できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	「食事・食育に関する指導法について」 乳幼児にとって食事をする必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第2回	「着脱に関する指導法について」 幼児が自分で着脱することの意味について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第3回	「清潔に関する指導法について」 乳幼児のからだや生活周辺を清潔に保つことの必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第4回	「排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第5回	「生活面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって生活面における安全な環境づくりについて学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第6回	「交通面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって交通面における安全な環境づくりについて学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第7回	「災害面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって災害面における安全な環境づくりについて学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第8回	「平衡性・移動性・操作性を高める運動遊びに関する指導法について」 乳幼児にとって運動遊びの必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					土田 豊					
第9回	「食事・食育・着脱に関する指導法について」 乳幼児にとって食事・食育・着脱することの必要性について配慮事項を含めた学びを活かし、指導案を作成する。					荒谷 友里恵					
第10回	「清潔・排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって清潔・排泄・睡眠の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし、指導案を作成する。					荒谷 友里恵					
第11回	「生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって生活面・交通面・災害面の安全の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし、指導案を作成する。					荒谷 友里恵					
第12回	「指導案を活用した健康指導を行う」 対象年齢を設定し、ねらいどおりに健康教育を行う。					荒谷 友里恵					
第13回	「表現遊びに関する指導法について」 乳幼児期における身体表現活動の必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第14回	「幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について」 乳幼児の生活場面で体を動かしたくなる環境構成について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。					荒谷 友里恵					
第15回	「小学校との接続を考慮した指導法について」 小学校との接続を考慮し、幼児期に身につけておく必要のある力について考え、指導法をまとめる。					荒谷 友里恵					
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	10		学ぶ意欲があり、集中して授業に取り組んでいるかをノートの作成状況から評価する								
レポート	10		課題のテーマに沿い、幼児にあった指導法が具体的に記述できているかを評価し、コメントを記入して返却する。								
小テスト											
定期試験	60		到達目標について、知識・理解の到達度を評価する								
その他	20		指導案を使用した「健康の指導」ねらいに沿った指導案を時間通りに展開できるか評価表を用いて評価する。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得											
授業外学修	授業計画に応じて予習・復習し、1回の授業で4時間の学修を行う。										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
子どもの保健と安全演習ブック	松本峰雄	ミネルヴァ書房	978-4-623-08910-9	2,500円+税							
使用テキスト：自由記載	一年次に購入済み										
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 (平成29年6月チャイルド社) 幼稚園教育要領解説 (平成30年3月 文部科学省)										
その他	授業の進行度により授業内容を変更することがある。										
備考											

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭（10年）の実務経験を有する。（土田 豊） 看護師（10年）としての実務経験の中で、小児科病棟勤務の実務経験を有する。（荒谷 友里恵）
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	小学校での勤務経験を活かした運動指導を教授する。（土田 豊） 小児科病棟勤務での看護経験から、保育の現場に必要な基礎的知識を教授する。（荒谷 友里恵）

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 日常生活習慣に関する 指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策考えることが難しい。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	2. 生活面・交通面・災害面 の安全に関する指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	3. 発達を促し安全に配慮した 遊びの指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
思考・問題解決能力	1. 幼児の興味を引きだし効果 を高めるツールを使った指導 法の計画	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集、十分な比較検討をした上でツールを決めることができる。また、発達に応じた的確な指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集・比較検討した上でツールを決めることができる。また、発達に応じた指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数と比較検討した上でツールを決め、指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数と比較検討した上でツールを決めたが、的確な指導法の考察が十分ではない。	目的を十分理解しておらず、ツールを比較検討しないまま指導法を考察するため、的確な指導法を作成できない。
技能	1. 健康教育の指導	指導案が十分に完成され、指導案通りにねらいに沿った的確な指導が時間内に行える。対象者の発達・発育に合わせた指導内容で、対象者の興味・関心を引く十分な健康教育ができる。	指導案が十分に完成され、指導案通りにねらいに沿った指導が時間内に行える。対象者の発達・発育に合わせた指導内容である。	指導案通りにねらいに沿った指導が時間内に行えるが、指導内容が一部不十分である。対象者の発達・発育に合わせた指導内容である。	健康教育は一通り行えるが、指導案通りにねらいからそれた指導となり、対象者の興味・関心を十分に引くことができない。	指導案が不十分で、ねらいが定まっておらず、内容が適切ではない。対象者の発達・発育に合わせた内容ではない。
態度	1. 課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べるができる。また、知識の定着が見られる。	意欲が十分とはいえないが、グループワークなどで少しはテーマに沿った内容で意見・感想を述べることもある。また、知識の定着が少ない。	意欲的な態度が見られず、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べるのが全くなかった。また、知識の定着も見られない。

科目名	人間関係の指導法		授業番号	EE216	サブタイトル						
教員	岡本 美幸										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	子どもが他者と親しみ支え合って生活するために、領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を深めることを目指す。そのうえで、自立心を育てるとともに、道徳心や規範意識の芽生えを育み、他者とかかわり、協力して物事に取り組んでいく力の育ちにふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育の具体的な知識および指導法を学習する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえて、子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。</li> <li>・子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身につける。</li> <li>・グループワーク、事例検討等の演習の実践およびその振り返りを通して、具体的な指導案の作成や保育を改善する視点を身につける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げや学士力の内容のうち、(知識・理解)(技能)の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像 「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、遊びや生活を通して他者を理解し調整する力を環境を通して培うことを理解する。										
第2回	乳幼児期における人とかかわりの発達と保育 人とかかわりの重要性と個と集団の育ちについて理解する。										
第3回	保育者の様々な役割 人とかかわる力を育む保育者の役割について理解する。										
第4回	0歳児における人とかかわりの発達と保育者の援助 0歳児の人とかかわりに重要となる、人的環境について理解する。										
第5回	1, 2歳児における人とかかわりの発達と保育者の援助 1, 2歳児における人間関係の意義と、その発達を支える保育者の援助について理解する。										
第6回	3, 4, 5歳児における人とかかわりの発達と保育者の援助 各歳児の特徴を踏まえながら、人間関係の発達を育む保育者の援助について理解する。										
第7回	人とかかわりが難しい子どもへの支援 障がいのある子どもや外国製の子ども等、多様性を尊重した保育のあり方や、支援の工夫を理解する。										
第8回	発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育 子どもの発達や学びの連続性を踏まえた、乳児期、幼児期、学童期への連携・接続について理解する。										
第9回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」① 「自立心」を育むために、幼稚園教育要領や保育指針を読み解く。										
第10回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」② 「道徳心や規範意識の芽生え」を育むために、幼稚園教育要領や保育指針を読み解く。										
第11回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」③ 「協同性」を育むために、幼稚園教育要領や保育指針を読み解く。										
第12回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」④ 「社会生活との関わり」を育むために、幼稚園教育要領や保育指針を読み解く。										
第13回	子どもの人間関係の発達を支える保育者の同僚性 保育の相互理解を促すためにどのように、言語化・可視化を行うか、保育を読み取る視点について理解する。										
第14回	子ども理解から保育をつくる 子ども理解から始まる保育について改めて考え、その視点を踏まえた指導案の作成方法を理解する。										
第15回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ 子どもを取り巻く人間関係の状況と現代に求められる保育内容「人間関係」について理解する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
	種別	割合	評価基準・その他備考								
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への参加・貢献度、受講態度、授業の振り返りシート提出等を、総合的に評価する。								
	レポート・課題	20	3回の課題レポートを行う。テーマに沿って、理解度を評価する。コメントをつけてそれぞれに返却する。								
	小テスト	20	「知識・理解」「思考・問題解決能力」の理解を深めるために、ループブックを踏まえて2回の小テストを行う。返却時に授業内で復習を兼ねて解説する。								
	定期試験	50	授業全般の内容について、理解度を評価する。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク等に積極的に参加し、自身も円滑な人間関係を築けるように主体的に授業に取り組むこと。</li> <li>・日ごろから乳幼児や子育てに関わるニュースや新聞記事等に目を通す習慣をつけ、人間関係のあり方について探究し、想像力を広げるようにすること。</li> </ul>										
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、授業終了時に本授業における学びを確認するための、振り返りレポートを課す。</li> <li>・事前・事後学習として、テキストや配布資料の指定範囲を週あたり2時間以上の予習・復習すること。</li> <li>・課題提出は必ず行うこと。</li> </ul>										
使用テキスト											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
	幼稚園教育要領解説	文部科学省(著)	フレーベル館	978-4577814475	240円+税						
	保育所保育指針解説	厚生労働省(編集)	フレーベル館	978-4577814482	320円+税						
使用テキスト：自由記載											
参考図書											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
	領域「人間関係」乳幼児期にふさわしい生活で育む	河合優子(編著)・大澤洋美(編著)・佐々木 晃(編著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09605-3	2,420円						
	新訂 事例で学ぶ保育内容(領域)人間関係	無藤隆(監修) / 岩立京子(編者代表)	萌文書林	978-4-89347-257-0	2,200円						
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府(著)、文部科学省(著)、厚生労働省(著)	フレーベル館	978-4577814499	350円+税						

参考書：自由記載	
その他	その他、授業中に適宜資料を配付する。
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立保育所における保育士の実務経験を有する。(15年)
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者	
実務経験を いかけた教育内容	公立保育所における保育士の経験(15年)を活かして、具体的な事例を交えながら、保育者として身につけておくべき領域「人間関係」に関する知識と指導法、基礎的な技能を習得できるように授業を展開していく。

## ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.領域「人間関係」の理解	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を大変よく理解している。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点をおおむね理解している。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点をあまり理解していない。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を全く理解していない。
知識・理解	2.保育現場での「人間関係」の理解	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察がうまくできる。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察ができる。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察がおおむねできる。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察があまりできない。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察が全くできない。
技能	1.保育技術に関する理解	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を十分に身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法をおおむね身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法をあまり身につけていない。	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を全く身につけていない。

科目名	環境の指導法 1クラス		授業番号	EE217A	サブタイトル				
教員	清水 憲志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた、具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたて、子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境についての知識や技術について理解し、修得することができる。</li> <li>・具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたてることことができる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性 …環境が持つ意味を捉え、指導法を考える。								
第2回	発達にふさわしい人的・物的環境 …発達を促すための環境を理解する。								
第3回	植物や生き物に触れる中で学び …どんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物の理解を深めよう。								
第4回	自然物を使った保育指導案の作成 …自然物を活用できる指導案を作成しよう。								
第5回	自然物を使った保育の実践 …自然物を使って作品を作ろう。								
第6回	乳児の保育環境について …乳児の環境について知識を深めよう。								
第7回	幼児の保育環境について …幼児の環境について知識を深めよう。								
第8回	秋の自然物に触れ、深めよう(どんぐりゴマづくり) …ツリーやどんぐりゴマを作ろう。								
第9回	自然環境と子どもの育ち …自然について理解し、子どもの育ちに与える影響を理解する。								
第10回	遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために …生活を通して、文字や数量を理解しよう。								
第11回	気になる子どもへの環境について …子どもの特性を知り、生活しやすい環境を考えよう。								
第12回	ドキュメンテーションの作品鑑賞会 …それぞれの作品を見て、感性を高めよう。								
第13回	保護者に向けた情報発信のツールとしての活用 …様々なツールについて理解し、現場の実践例(園長及び現役保育者)に触れながら検討する。								
第14回	多国籍な子どもと共生する保育環境について …外国のルーツを持つ子どもについて理解し、対応を考えよう。								
第15回	幼児期の心を育てる保育環境について …子どもの最善の利益を守るための保育について考えよう。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	学ぶ意欲があり、集中して授業に取り組んでいるかを評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	60	知識・理解の到達度を評価する。						
	その他	30	ドキュメンテーション作成						
評価の方法：自由記載	ドキュメンテーションの評価の観点 ・A4の紙2枚分(A3・1枚)に写真を用いて、記録が見られるものをつくらう。(1点) ・写真は活動の軌跡が見られるだけの枚数。(1点) ・裏に学籍番号・名前・テーマを書く(1点) ・写真についてのコメント・見出し・イラスト等があること(1点) ・1つの文章が短いこと。(。までが30文字)(1点) (※補足のイラストなどで、誰が見ても同じ理解ができるなら、説明文を入れる必要はありません。) ・子どもがみてわかりやすい内容であること(5点) ・自分なりの工夫がされていること(5点) ・誰が見ても変化(経過)していることが分かること(5点) ・見出し等に工夫がされていること(5点) ・前期でした「フォトブック」の経験が生かされていること(5点) ※採点后、成績を個別に開示し、授業内で振り返りを行う。								
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の生活の中で、四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。</li> <li>・地域の自然に興味を持ち、色合いや生長を楽しむこと。</li> <li>・絵画や写真などを見たり、音楽を聞いたり、友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。</li> </ul>								
授業外学修	1. 復習として、ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

## 使用テキスト：自由記載

適宜レジュメを配布する。

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府，文部科学省，厚生労働省）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育園保育士（8年），幼稚園教諭（1年），ネイチャージームリーダー（3年），ネイチャージームインストラクター（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保育所園長及びこども園長等
実務経験をいかした教育内容	実務経験（公立保育園保育士（8年），幼稚園教諭（1年），ネイチャージームリーダー（3年），ネイチャージームインストラクター（2年））を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し，総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して，ねらい，内容，指導案，保育実践など指導する。また，自然への興味関心を高めるためネイチャージーム【ネイチャージームリーダー（3年）】を行い，自然を身近なものとして捉えられるようにする。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 発達段階に基づいた、環境構成	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成しようとする。	発達の連続性を意識して、環境を構成できる。	年齢に応じた環境が構成できる。	年齢に応じた環境があまり構成できる。	年齢に応じた環境が構成しにくい。
知識・理解	2. 人的環境としての意味を理解し、勤勉かつ主体的に行動	人的環境として、協働性や主体的な学びを意識して行動できる。	人的環境として、子ども一人一人に応じて行動できる。	人的環境として、意識して行動できる。	人的環境として、あまり意識して行動できない。	人的環境として、意識して行動できない。
知識・理解	3. 植物の特性を知り、食育が持つ意味への理解力	野菜や植物の特性や育てる季節を理解し、積極的に保育に取り入れようとする。	野菜や植物の特性を理解し、保育に取り入れる。	野菜や植物の名前を理解している。	野菜や植物の名前をあまり知らない。	野菜や植物の名前をほぼ知らない。
思考・問題解決能力	1. 子ども一人一人やクラスの課題を意識し、環境を構成できる。	子ども一人一人の特性やクラスで共に育ち合って生活することを十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性をあまり理解できず、適切な援助がしにくい。	子ども一人一人の特性を理解できず、適切な援助ができない。
思考・問題解決能力	2. 生活の中で季節感に親しみ、良さを感じて計画しようとする。	四季の特徴を十分に意識して保育の年間計画を立案できる。	四季の特徴を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画があまり立案できない。	四季を意識して保育の年間計画を立案できない。

科目名	言葉の指導法		授業番号	EE218	サブタイトル						
教員	福澤 惇也										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。										
到達目標	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	保育における「言葉」の意義と指導の重要性を学ぶ										
第2回	子どもの言葉の発達過程（1）－発達の道筋を事例に基づいて学ぶ－										
第3回	子どもの言葉の発達過程（2）－小学校への接続をふまえた年長児段階の言葉の重要性を学ぶ－										
第4回	言葉を育む環境構成と援助（1）－話したい、聞きたい意欲が湧き出る環境のあり方を考える－										
第5回	言葉を育む環境構成と援助（2）－生活に必要な言葉の習得と大人の関わりを学ぶ－										
第6回	言葉を育む環境構成と援助（3）－すれ違いやいざこざ場面等のもどかしさへの援助を事例から学ぶ－										
第7回	言葉を豊かにする環境構成と援助（1）－子ども同士の言葉による伝え合いを事例から学ぶ－										
第8回	言葉を豊かにする環境構成と援助（2）－文字などで伝える楽しさを深掘りする－										
第9回	子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTなど）の活用法を学ぶ										
第10回	言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊びを含む）のあり方を考える										
第11回	子どもの言葉を育む保育の実際（情報機器を活用した教材研究を含む）を学ぶ										
第12回	子どもの言葉を育む保育の構想を指導案作成を通して学ぶ										
第13回	子どもの言葉を育む保育の実践を模擬保育の実践から学ぶ										
第14回	子どもの言葉を育む保育の評価と改善を模擬保育の振り返りから学ぶ										
第15回	「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮を学ぶ										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	10		意欲的かつ主体的な受講態度、課題に対して協働する態度、講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。								
レポート	10		講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。								
小テスト											
定期試験	80		子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。								
その他											
評価の方法：自由記載											
受講の心得	講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。										
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白しておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
使用テキスト：自由記載											
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック	松本峰雄ほか	ミネルヴァ書房	978-4-623-09277-2	2, 750円							
参考書：自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 (平成29年6月 チャイルド社) 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）										
その他											
備考											

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児期の言葉の発達を 理解できている	幼児期の言葉の発達に関して 高度な知識を有し、言葉の指 導法における保育計画を具 体的に考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関して 高度な知識を有し、言葉の 指導法における保育計画を 考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関し て知識を有し、言葉の指導法 における保育計画を考慮す ることができる。	幼児期の言葉の発達に関し て知識を有しているが、言 葉の指導法における保育計 画を考慮するまでには至ら ない場合がある。	幼児期の言葉の発達に関し て知識を有しているが、言 葉の指導法における保育計 画を考慮するまでには至ら ない。
知識・理解	2. 幼児の言葉の発達を促す 援助の方法を理解できている	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して高度な知識を有 し、言葉の指導法における保 育計画を具体的に考えるこ とができる。	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して高度な知識を有 し、言葉の指導法における 保育計画を考慮することが できる。	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して知識を有し、言 葉の指導法における保育計 画を考慮することができる。	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して知識を有してい るが、言葉の指導法におけ る保育計画を考慮するまで には至らない場合がある。	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して知識を有してい るが、言葉の指導法におけ る保育計画を考慮するまで には至らない。
知識・理解	3. 幼児期の言葉の発達に 関する課題について理解でき ている	幼児期の言葉の発達に関する 課題について高度な知識を有 し、保育の中での具体的な援 助法を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関する 課題について高度な知識を 有し、保育における援助法 を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関す る課題について知識を有し、 保育における援助法を考慮 することができる。	幼児期の言葉の発達に関す る課題について知識を有し ているが、保育における援助 法を考慮するまでには至ら ない場合がある。	幼児期の言葉の発達に関す る課題について知識を有し ているが、保育における援助 法を考慮するまでには至ら ない。
知識・理解	4. 幼児を取り巻く児童文化 について理解できている	幼児を取り巻く児童文化に関 して高度な知識を有し、児童 文化を扱う保育計画を具 体的に考えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に関 して高度な知識を有し、児童 文化を扱う保育計画を考慮 することができる。	幼児を取り巻く児童文化に関 して知識を有し、児童文化 を扱う保育計画を考慮す ることができる。	幼児を取り巻く児童文化に関 して知識を有しているが、児 童文化を扱う保育計画を考 えるまでには至らない場合 がある。	幼児を取り巻く児童文化に関 して知識を有しているが、児 童文化を扱う保育計画を考 えるまでには至らない。
知識・理解	5. 就学後教育をふまえた幼 児期の言葉の指導法について 理解できている	就学後教育をふまえた幼児期 の言葉の指導法に関して高 度な知識を有し、保育計画を 具体的に考えることができる。	就学後教育をふまえた幼児期 の言葉の指導法に関して高 度な知識を有し、保育計 画を考慮することができる。	就学後教育をふまえた幼児 期の言葉の指導法に関して 知識を有し、保育計画を考 えることができる。	就学後教育をふまえた幼児 期の言葉の指導法に関して 知識を有しているが、保育 計画を考慮するまでには至 らない場合がある。	就学後教育をふまえた幼児 期の言葉の指導法に関して 知識を有しているが、保育 計画を考慮するまでには至 らない。
思考・問題解決能力	1. 適切な情報処理と知識 の応用に基づく有機的な判断 ができる	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益と は何かを理解した上で、高 度な知識を活用して具体的 な保育計画を考慮するこ とができる。	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益 とは何かを理解した上で、 高度な知識を活用して保 育計画を考慮するこ とができる。	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益 とは何かを理解した上で、 知識を活用して保育計 画を考慮するこ とができる。	保育内容に関する情報を精 査し、子どもの利益とは何 かを理解しているが、保 育の計画を考慮するに は至らない場合 がある。	保育内容に関する情報を精 査し、子どもの利益とは何 かを理解しているが、保 育の計画を考慮するに は至らない。
技能	1. 指導案が立案できる	幼児期の言葉の発達を十分 理解した上で、子どもの姿に 即した指導案の立案が できる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、子どもの姿に 即した指導案の立案が できる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、指導案の立案 ができる。	幼児期の言葉の発達を理 解しているが、指導案の 立案は難しい。	幼児期の言葉の発達に関 する理解が不十分であり、 指導案の立案が難しい。
技能	2. 幼児の言葉の発達を促 す援助ができる	幼児期の言葉の発達を十分 理解した上で、子どもの成長 や日々の姿に即した適切 な援助とかわり方が できる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、子どもの成長 や日々の姿に即した適切 な援助とかわり方が できる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、幼児に適切 な援助を行い、かわるこ とができる。	幼児期の言葉の発達を理 解しているが、幼児への 適切な援助を行うことが 難しい。	幼児期の言葉の発達に関 する理解が不十分であり、 幼児への適切な援助を行 うことが難しい。
技能	3. 言葉の指導における保 育環境の構成ができる	幼児期の言葉の発達を十分 理解した上で、幼児が言葉 を獲得して使用できる環 境を具体的に構成するこ とができる。	幼児期の言葉の発達を十分 理解した上で、幼児が言葉 を獲得して使用できる環 境を構成することが できる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、幼児が言葉 を獲得して使用できる環 境を構成することが できる。	幼児期の言葉の発達を理 解しているが、幼児が言葉 を獲得して使用できる環 境を構成することが 難しい。	幼児期の言葉の発達に関 する理解が不十分であり、 幼児が言葉を獲得して使 用できる環境を構成す ることが難しい。

科目名	表現の指導法		授業番号	EE219	サブタイトル				
教員	武田 恵美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	領域「表現」に関する知識や技能、指導法を講義する。教育要領、保育指針、教育・保育要領に基づき、領域「表現」のねらいや内容を説明する。音楽、身体、造形等による表現活動を通じ、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法を理解するとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を養う。指導案作成や模擬保育の実践を通じ、保育者に求められる専門的な知識および技能を修得し、実践力を身につける。								
到達目標	教育要領等に基づき、領域「表現」のねらいや内容を理解し説明できるようになる。子どもの発達に応じた環境構成や援助を検討し、指導案の作成や楽器奏法、模擬保育の実践を通して、保育現場で活用できる具体的な指導技術を身につける。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもにとっての表現とは(1) 子どもの表現を自己実現やコミュニケーションの視点から捉え、その意義と保育者の関わりや環境構成について理解する。								
第2回	子どもにとっての表現とは(2) 子どものイメージが表出・模倣を経て表現へと発展していく過程を、子どもの表現の特質を踏まえて理解する。								
第3回	発達と子どもの表現 子どもの発達と表現との関係を、発達の特徴や個人差を踏まえて理解する。また、保育内容の構造について、領域「表現」に焦点を当てて理解する。								
第4回	領域「表現」の変遷(1) 「幼稚園教育要領」の変遷から領域「表現」について考える。幼児教育において育みたい資質・能力および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。								
第5回	領域「表現」の変遷(2) 「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷と内容について理解する。また、領域「表現」の成立および改訂(改定)の概要について理解する。								
第6回	領域「表現」とは(1) 乳児期から3歳以上児の、発達段階に応じた領域「表現」の「ねらい」を理解する。また、発達に応じた表現の育ちと保育の関わりについて考える。								
第7回	領域「表現」とは(2) 領域「表現」の「内容」、「内容の取り扱い」を理解する。また、領域「表現」の指導および指導における留意点について考える。								
第8回	子どものさまざまな表現を探る(1) 子どもにとっての身体表現・音楽表現の意味について理解する。また、子どもの発達、保育者の受容、子どもを取り巻く現状との関係から表現の特徴について理解する。								
第9回	子どものさまざまな表現を探る(2) 子どもにとっての音楽表現・言語表現の意味について理解する。また、子どもの発達、保育者の受容、子どもを取り巻く現状との関係から表現の特徴について理解する。								
第10回	子どもの主体性と保育者の専門性について考える 一般的な保育実践をもとに、子どもの表現に見られる主体性の捉え方を理解し、子どもの表現を支える保育者の専門的な関わりについて考える。								
第11回	子どもの発達段階に応じた指導計画を考える 子どもの発達段階や表現の姿を踏まえ、ねらいと内容、環境構成、保育者の援助について検討し、指導計画の構想について考える。指導計画の構想を行い、指導案を作成する。								
第12回	子どもの楽器の取り扱いおよび奏法 無音程・有音程打楽器の取り扱いと演奏方法について、実践を通して理解を深める。								
第13回	子どもの楽器あそびの指導と展開 子どもの楽器あそびを通じた表現活動の広がりについて理解する。また、アンサンブル活動における援助や基本的な指揮法について、実践を通して理解を深める。								
第14回	指導案に基づく模擬保育を行う(1) 作成した指導案に基づき模擬保育を行い、その実践を通して保育構想や保育者の関わりを中心に振り返る(タブレット等の情報機器の活用を含む)。								
第15回	指導案に基づく模擬保育を行う(2)およびまとめ 作成した指導案に基づき模擬保育を行い、その実践を通して保育構想や保育者の関わりを中心に振り返る(タブレット等の情報機器の活用を含む)。 今後の保育実践への課題を整理する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業に対する意欲的な取り組み、合奏やグループ活動、模擬保育等への主体的かつ積極的な参加態度を評価する。授業内での講評や随時の助言によりフィードバックを行う。						
	レポート	20	学修内容を整理した「授業振り返りシート」の内容に基づき、授業の主要なポイントの理解度を評価する。提出されたシートにコメント等を記入して返却する。						
	小テスト	20	打楽器の奏法や弾き歌い等の実技演奏により、技術の習得度を評価する。演奏後に口頭で個別に講評や助言を行う。						
	定期試験								
	その他	40	子どもの発達段階を踏まえた指導案の作成、それに基づく模擬保育の実践によって評価する。模擬保育後に口頭で講評や助言を行う。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	毎回の授業や課題には、主体的な姿勢で取り組んで下さい。授業内でのグループ活動や演習活動においては、お互いの表現を尊重し合い、協力しながら学びを深められるよう取り組んで下さい。また、子どもたちの豊かな表現を支える技術を磨くために、楽器演奏や手あそびなどの練習を継続し、実践力を身に付けていくことを期待します。								
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点や不明点を明確にする。 2 復習として、授業内容を振り返り、「授業振り返りシート」を作成する。 3 楽器の演奏技術および弾き歌い、手あそび等の技術習得のために、継続的な練習を行う。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								

## 使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
楽しい音楽表現	高御堂愛子・植田光子・木許隆	圭文社	9784874460672	
使用テキスト：自由記載				

## 参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Basic and Variations	木許隆, 武田恵美, 長井典子	圭文社	9784874460917	
うたうソルフェージュ	木許隆	圭文社	9784874460931	
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	9784577814475	
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	9784577814482	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	9784577814499	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	音楽大学附属音楽アカデミー講師（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	音楽大学附属音楽アカデミーにおける講師（10年）としての実務経験を生かし、保育現場で必要とされるピアノ演奏や弾き歌いについて、保育者が子どもに対してどのように関わり、指導すべきであるかという実践的な知識と技術の修得を支援していく。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	領域「表現」のねらいと内容の理解	教育要領等に基づき、領域「表現」のねらいや内容、発達との関連を十分理解して、説明できる。	教育要領等に基づき、領域「表現」のねらいや内容、発達との関連を理解して、説明できる。	教育要領等に基づき、領域「表現」のねらいや内容について、概ね理解して、説明できる。	領域「表現」の内容や発達に関する理解が不十分であり、説明するまでには至らない。	領域「表現」の内容について、理解することができず、説明もできない。
思考・問題解決能力	環境構成の検討と指導案の作成	子どもの主体性を踏まえ、発達段階に応じた環境構成や援助を詳細に想定し、指導案を作成できる。	子どもの発達段階に応じた環境構成や援助を具体的に想定し、指導案を作成できる。	指導案の形式を整え、発達段階に応じた活動内容を想定し、指導案を作成できる。	子どもの姿と活動内容の対応が不十分であり、発達段階に応じた指導案を作成することができない。	保育の構想を立てることができず、指導案を作成することができない。

科目名	教育・保育技術論 1クラス		授業番号	EE220A	サブタイトル						
教員	鳥越 亜矢										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	取り扱う内容は担当教員の専門性に基いた造形表現活動を中心とするが、活動を考える方法、活動を評価する（ほめる・振り返る）視点や方法のほか、保育における直接的、間接的コミュニケーションなどについて講義する。また、1年次の学習に基づいた保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表などを通じ、主体的に対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。										
到達目標	子どもの特性を考慮して、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育内容の計画や、その実施を目指す基礎的な方法を獲得する。また、ICTを活用して保育内容のドキュメンテーションを中心とした保育情報の作成と提供ができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考	ドキュメンテーションの内容は、1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。 ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。 補講の回は1・2組で合同行いが、それ以外の回はクラス別に行う予定。										
回	概要						担当				
第1回	教育・保育におけるエビデンス 5Cの力と幼児期の終わりまでに沿ってほしい10の姿との関係性を理解するため、実際に保育現場で5Cの力を視点活用した事例を知り、教育・保育におけるエビデンスの重要性を理解する。										
第2回	保育内容を考える方法①ものとの出会いと行為から保育内容を考える～□を／□に △する～ “もの”と出会い、子どもが好奇心いっぱい“！？♡”なことが起きる五感を駆使する行為や、そのような行為が起きる安全・安心な環境、生活に内在する保育内容の芽について考える。										
第3回	保育内容を考える法②同じ活動の意味を考える 「たっぷり」「のびのび」「何でも」をキーワードにして、同じ活動でも年齢や姿勢、場所、画材、道具、基底材などによって生じる変容や、活動の持つ意味について考える。										
第4回	保育内容を考える方法③課題と題材（発達に応じた行為を表現に活かす） 発達上の課題とそれに適した保育内容の題材を考えるため、1年次の「保育内容の理解と方法A」で配布した資料に基づき、発達に応じた行為を表現活動に活かすことや育ちの上での表現活動の意味を考え、理解する。										
第5回	教育・保育の技術①導入・展開・評価における思考・意欲・行動を引き出す仕掛け 子どもの思考・意欲・行動を引き出す仕掛けを情報と位置づけ、動機付けになる情報とは何か、また情報を提供するタイミングが保育環境・環境構成・導入・展開・評価などのそれぞれの保育場面にあることを理解する。										
第6回	教育・保育の技術②様々な子どもに対応する活動とは：結果やプロセスの多様性 自分が実習する園においてほしい子どもの特徴とその反対の特徴を短い言葉で表し、多様な子どもがいることを意識する。また、画一的な活動としてのスモールステップと多様な子どもに応じるためのスモールステップについて考える。										
第7回	教育・保育の技術③伝わる言葉・伝わらない言葉 幼児編 子どもに言いがちな仲良くする・ちゃんとする（きちんとする）・しっかりするなどの言葉は実はとても抽象的である。保育者の意図が子どもに届く表現について、事例を通じて理解する。その中で保育行為におけるオノマトペについても触れる。										
第8回	教育・保育の技術④伝わる言葉・伝わらない言葉 保護者編 保護者に対する保育者の言葉は時として保護者を不安にさせたり、担任や園に対する不感応につながりすることを理解する。事実を伝えるだけでなくそこに子どもの気持ちを添えることや、指導より提案のかたむけをとること、伝えたとの後のフォローをすることにより、保護者ともに子どもをはぐむ保育姿勢や関係性の構築につながることを理解する。										
第9回	教育・保育の技術⑤保育の評価：振り返り 振り返るために必要なものが「ねらい」であることを理解する。また、保育者の「褒める」言葉がもたらす結果について考え、何をどう褒めることが子どもの育ちにつながるかを理解する。その際、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」のスケッチブックに行った課題作品を褒め合う体験をする。これらを通じ、上手下手で捉えない保育姿勢について学ぶ。										
第10回	保育現場におけるICTの活用－研修と保護者に向けた保育ドキュメンテーション 保育者の業務内容におけるICT機器やシステムの活用について知る。また、具体的な事例を通じて園内・園外研修のほか、保護者への情報提供とそれを通じた信頼関係構築に寄与するといった、ICTの活用を含めた保育ドキュメンテーションの持つ意味について理解する。										
第11回	保育ドキュメンテーション作成に向けて グループ作りと取り上げる保育内容の選定を行う。グループ数は偶数で最大8グループとする。保育対象は0歳児から5歳児までがそろえるようにする。取り上げる保育内容は1年次の「保育内容の理解と方法A/B」で取り上げた内容とし、様々な子どもに対応した活動や援助を行うことを具体的に考える。										
第12回	ドキュメンテーションの作成 グループごとに保育内容の追体験を行うなどしてドキュメンテーションのプレゼンテーションに用いる素材を集める。取り上げた保育内容をやるにあたり、5Cの力の発揮や子どもが好奇心いっぱい“！？♡”なことが起きる五感を駆使する行為がどこでどんな風に見ることができるのかということや、そのような行為が起きる安全・安心な環境や援助についても具体的に考える。										
第13回	ドキュメンテーションの作成・プレゼンテーションの練習 12回目と同様。進度に応じてプレゼンテーション内容の整理や練習をする。プレゼンテーションの順番を決める。13回目の週うちにプレゼンテーションデータをクラスルームに投稿する。										
第14回	プレゼンテーションとその講評 前半グループ パワーポイントを用いて作成したドキュメンテーションを発表する。その際、他グループとの質疑応答を行う。また、その質疑応答を踏まえて発表について講評する。										
第15回	プレゼンテーションとその講評 後半グループ パワーポイントを用いて作成したドキュメンテーションを発表する。その際、他グループとの質疑応答を行う。また、その質疑応答を踏まえて発表について講評する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	30		毎回の授業における学びの振り返りから、1年次の学習内容を振り返りつつ活動に主体的に取り組んでいる様子を評価するほか、授業中のワークへの参加や発言についても加点評価の対象とする。								
レポート・提出課題	20		保育内容のドキュメンテーションの内容をSDGsの普遍的目標とSTEAM教育の観点、5Cの力、幼児期の終わりまでに育てたい姿（10の姿）との具体的な関連性があるなど、保育のエビデンスとなる知識を活用して作成及び発表していることを加点評価する。また、ドキュメンテーションの発表後に総評としてコメントする。								
筆記試験	50		グループで作成した保育のドキュメンテーションのライド内容について、保育所保育指針や、幼稚園教育要領、教育保育要領など内容との関係性を具体的に記述できていることを評価する。また、環境としての保育者の役割を理解しているかどうかを評価する。								

その他	
評価の方法： 自由記載	
受講の心得	授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。 ドキュメンテーションに関する内容の時には、1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。
授業外学修	保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には、時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週4時間程度行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第3版 (1年次の授業で購入済み)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	新版 遊びの指導 入・幼児編 (1年次の授業で購入済み) 幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社 保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社			
その他				
備考	令和4年度改訂			
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	岡山県教育センター及び、幼稚園・保育園における研修講師(14年)、岡山県保育協議会保育会研究紀要の指導助言者(2年)			
担当教員以外 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容	岡山県保育協議会保育会研究紀要における指導助および保育者研修等で、大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力、すなわち「感知する」Catch、「創造する」Create、「コントロールする」Control、「コミュニケーションする」Communicate、「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に自然とつながっていくことを講演している。実際にその視点を活用することにより、子どもの活動が豊かに展開し、喘みつきやひっかきが減少した保育園があるので、エビデンスのある教育を行うことを目的として、そうした成果や園が作成したドキュメンテーションを学生に紹介する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 1年次の授業内容の振り返りにおける保育のエビデンスとなる知識の活用の様子	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動に多くのSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動にSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を振り返ることができる。また、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を振り返ることができる。また、教師の助言によってSTEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	1年次に学習した5Cの力のことをほとんど覚えておらず、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を5Cの力の発揮という視点で振り返ることができない。教師の助言があっても、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができない。
知識・理解	2. 保育内容のドキュメンテーションにおいて子どもの特性や多様性の考慮や、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育方法が示されていること	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る柔軟性のある具体的な保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る具体的な保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	ドキュメンテーションの内容が子どもの特性や多様な子どもがいることに触れられていないうえ、実践的なドキュメンテーションを作ることができない。
思考・問題解決能力	1. 問題点とその解決方法を見出す過程における他者との共同や知識・情報・手段の活用	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して様々な情報を集め、他者と共同して情報を検証したうえで、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すこと、または、共同して課題解決に当たることが難しい。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すことや共同して課題解決に当たることができない。
技能	1. 授業中のICT活用	GoogleスライドやAIを使いこなし、多くの意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやAIを使いこなし、意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやAIを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドまたはAIのどちらかを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドやAIのどちらも使うことができないうえ、意見や考えを表明できない。
技能	2. グループで協力して作るプレゼンテーション資料とその発表及び質疑応答	グループで協力し、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションし、時間内に発表を終えるほか、質疑に十分応答することができる。	グループで協力し、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションし、時間内に発表を終えるほか、質疑に応答することができる。	グループで協力し、分かりやすい視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる。また、質疑に上、質疑に回答することができる。	グループで協力して視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる。また、質疑にはかろうじて応答することができる。	グループ内で協力して発表する様子が見られない。また、時間内に発表を終えることができないうえ、質疑にも応答できない。

科目名	教育実習		授業番号	EF309	サブタイトル					
教員	山本 房子、福澤 惇也									
単位数	4単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択	
授業概要	幼稚園教育（幼稚園・幼保連携型認定こども園）の現場で4週間の実習経験をする。									
到達目標	<p>幼児とその教育を正しく理解する力、幼児を受容しかつ指導する力、事務的な事柄を処理する能力等を身につける。</p> <p>優しさや思いやりある保育者の姿に触れ、信頼される保育者に必要な豊かな人間性について知り、実践出来る力を身に付ける。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	<p>観察・参加・指導実習（部分指導・全日指導）とおよそ3段階で進められる。</p> <p>観察実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育実践の場を実際に観察し、幼児の実態や指導に対する理解を深める。</li> <li>・幼稚園教育環境のおおよそを理解する。</li> </ul> <p>参加実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習担当教諭の計画に基づき、保育指導の展開と方法を体験的に学ぶ。</li> <li>・幼児に親しみ、その接し方に慣れる。</li> </ul> <p>指導実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部分指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の生活全体を把握し、担当教諭の指導計画に基づいて、1日のうちの1部分（1活動）を担当する。園の月案・週案等をふまえ、実習生自らが立案した指導計画により指導を行い、保育指導の基礎的実践を経験する。一人一人の幼児の言動等を観察することにより幼児理解を深める。</li> </ul> </li> <li>・全日指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終段階の実習である。幼児の生活全体を把握し、1日の保育を実践する。</li> </ul> </li> </ul> <p>部分指導と同様、幼稚園の月案・週案等をふまえ実習生自ら立案した指導計画により指導を行い保育指導の応用的実践を経験する。</p>									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢／態度	70	教育実習園からの評価（大学が示した評価項目、実習への意欲・責任感・研究的態度・協調性・指導計画立案・指導技術・事務処理）に基づいて評価する。実習後面談の中で、園からの評価をフィードバックし、自己評価とのすりあわせを行う。							
	実習日誌	30	教育実習園での実習日誌・指導案等の提出物について、記述内容や提出期限をふまえて評価する。実習後面談で個別にフィードバックを行うとともに、日誌にはコメントを添付して返却する。							
評価の方法：自由記載										
受講の心得	<p>体調管理に努め実習の課題をもち、積極的に実習に参加すること。社会人、保育者としての生活態度を自覚すること。実習の心得を守って行動すること。実習日誌等の取り扱い、提出物の期限に留意すること。</p>									
授業外学修	<p>1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性や実習生としての自分の動き等を日誌に記入する。</p> <p>2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入するとともに、次の日の実習のねらいを立てる。</p> <p>3. 指導案等の実習指導計画を作成する。</p> <p>以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。</p>									
使用テキスト										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
	詳説 幼稚園教育実習	森元 真紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-761-3	2090円					
使用テキスト：自由記載										
参考図書										
	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
	幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円					
参考書：自由記載										
その他										
備考	令和4年度改訂									
注意事項										
担当教員の実務経験の有無	有									
担当教員の実務経験	幼稚園教諭としての実務経験（18年）を有する。									
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有									
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園教諭・園長代理としての実務経験（7年）を有する。									

実務経験をいかした教育内容		幼稚園での実務経験（18年）をもつ教員を中心に，実習の巡回指導を行う。				
ルーブリック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児理解	保育現場での課題等を踏まえながら，幼児を理解することの意義と重要性について適切に述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について，自分の考えも取り入れて述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について具体的に述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について述べることができない。
知識・理解	2. 幼児教育・保育に対する理解	保育現場での課題等も踏まえながら，幼児教育・保育の意義と重要性について保育現場での課題等も踏まえながら適切に述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について，自分の考えも取り入れて述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について具体的に述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について述べることができない。
知識・理解	3. 実習日誌・指導案等の記述	実習日誌，指導案等に，担当教員の指導を踏まえた上で，発展的に記述できている。	実習日誌，指導案等に，担当教員の指導を取り入れ，適切に記述できている。	実習日誌，指導案等に，担当教員の指導も取り入れて記述できている。	実習園での実習日誌，指導案等を丁寧に記述している。	実習園での実習日誌，指導案等の記述が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 指導の計画	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で，環境構成や援助について具体的にかつ適切に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で，環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で，環境構成や援助を記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で，指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえて指導計画を立案することができにくい。
技能	1. 指導の技術	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した適切な援助ができる。	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した適切な援助をしようとする。	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した援助をしようとする。	担当教員の指示のもと，幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した援助をしようとする。	担当教員の指示があっても，環境構成や配慮，援助をしようしない。
技能	2. 事務処理	日誌等を期限を守って提出するなど，事務的な事柄を的確かつ迅速に処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出するなど，事務的な事柄を迅速に処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出するなど，事務的な事柄を処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出することができる。	日誌等を期限を守って提出することができない。
態度	1. 実習態度	実習意義や実習生としての立場を十分理解し，責任をもって実習をすることができる。	実習意義や実習生としての立場を理解し，責任をもって実習をすることができる。	守秘義務等，実習生として留意する事項を遵守して実習をすることができる。	担当教員の指示を受けて，守秘義務等，実習生として留意する事項を遵守して実習をすることができる。	守秘義務等，実習生として留意する事項を遵守できない。
態度	2. 実習意欲	積極的に幼児の中に入っていく，意欲的・主体的に実習に取り組むことができる。	積極的に幼児の中に入っていく，意欲的に実習に取り組むことができる。	積極的に幼児の中に入っていく実習に取り組むことができる。	担当教員の指示のもと，幼児の中に入っていく実習に取り組む。	担当教員の指示があっても，幼児の中に入っていく実習に取り組むことができない。
態度	3. 協調性	積極的に周りの動きや状況を察知し，自分の役割を考えながら担当教員等と協力して行動することができる。	積極的に周りの動きや状況を察知し，担当教員等と協力して行動することができる。	担当教員等と協力して行動することができる。	担当教員等と一緒に行動することができる。	担当教員等と一緒に行動することができない。

科目名	教育実習指導 1クラス		授業番号	EF310A	サブタイトル	
教員	山本 房子					
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態
						演習(対面授業科目)
						必修・選択
						選択
授業概要	幼稚園教育実習への意欲を高め、これまで学修した知識・技術等を生かしよりよい実践をしようとする態度や実習生としての心構えについて説明する。実習中の生活を学生がイメージできるよう、実習に向けての準備、実習中の生活の流れ、提出書類(日誌や指導案)の作成方法等に具体的に教授する。実習についての基礎・基本を大切にしながらも、実習園や実習地域によって実習の実態等が異なることもふまえ、学生個々の学習進度や到達目標等に合わせた指導を行う。実習終了後は実習の振り返りやグループ討議、報告会、事後面談を行い、幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。					
到達目標	実習前には実習生としての態度や心構え、指導案や日誌の書き方、教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに、実習での学習の成果のまとめを発表をし、自己課題を明確にできる。以上のことを目的とする。					
授業計画 備考	なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
回	概要					担当
第1回	教育実習の目標と意義を理解し、教育実習に向けての計画と準備を行う					
第2回	幼稚園教育、教師の役割、幼児の実態について理解する					
第3回	実習に対する課題を作成する					
第4回	園長先生・先輩による事前指導(先輩講演)を受ける					
第5回	教育実習日誌について① 日誌を書くこと(記録をとること)の目的を理解する 時系列型の日誌について、目標の立て方、一日の流れ、反省・考察等の記入方法や留意点を知る					
第6回	教育実習日誌について② 時系列型以外の日誌について、主にエピソード型、ドキュメンテーション型の日誌の記入方法や留意点を知る					
第7回	指導案について① 指導案を作成する意味を理解する 絵本の読み聞かせ・昼食場面の部分指導案を作成する					
第8回	指導案について② 学級別活動の部分指導案を作成する 全日指導案の書き方を知る					
第9回	実習の実際について 園での実習生としての生活の流れ、出勤から退勤までの流れを知る					
第10回	教育実習直前オリエンテーションを受け、実習への意欲を高める					
第11回	実習を振り返る① 幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営について理解する					
第12回	実習を振り返る② 幼稚園教諭の役割と援助について理解する					
第13回	実習を振り返る③ 反省及び自己評価を行う					
第14回	実習を振り返る④ 実習での学びや課題をもとにテーマレポートを作成する					
第15回	教育実習のまとめ 実習報告会を行う 事後面談を通して自己課題を明確化する					
授業計画 備考2	注) 第2～10回の授業のうち、時間の関係で授業時間以外の時間で授業をする回もある					
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、協力する態度、授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。			
	レポート	80	実習での学びに関する課題を、決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。実習後面談の中でレポートの評価等についてはフィードバックする。			
評価の方法：自由記載	テーマレポートの評価を80%、授業態度を20%の割合で評価する。					
受講の心得	実習に取り組むに当たっての課題を決定し、その準備をする。 提出物が多いので、提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。					
授業外学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 授業後は教科書や配布された資料をよく読み、知識を整理すること。 これまでの実習等の経験もふまえ、弾き歌いのためのピアノ練習、保育教材の作成、指導案作成等を積極的に行うこと。 その他、実習に向けての準備を主体的及び計画的に行うこと。 以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考	
	段階を追ってポイントが分かる必携 幼稚園教育実習	森元 貞紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	2100円	
使用テキスト：自由記載						
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考	
	幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭（18年）としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭としての実務経験（18年）及び実習生を指導した経験（16年）を生かし、教育実習に向けての心構えや準備、日誌の書き方等について実践的かつ具体的な指導を行う。

## ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児教育施設（幼稚園・幼保連携型認定こども園）に関する知識	幼児教育施設に関する具体的な知識を深く習得している。	幼児教育施設に関する具体的な知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識の習得が不十分である。	幼児教育施設に関する知識が習得できていない。
知識・理解	2. 教育実習に関する知識	教育実習に関する具体的な知識を深く習得している。	教育実習に関する具体的な知識を習得している。	教育実習に関する知識を習得している。	教育実習に関する知識の習得が不十分である。	教育実習に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3. 自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的なかつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的なかつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
思考・問題解決能力	1. 課題への対処	教育実習中の課題について、幼児の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。教育実習中の課題について、具体的なかつ適切な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について、幼児の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。教育実習中の課題について、具体的な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することが、不十分である。	教育実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができない。
技能	1. レポートの作成・提出	提出期限を守り、決められた様式に従い論理的なレポートを作成するとともに、他者に分かりやすく発表することができる。	提出期限を守り、決められた様式に従ってレポートを論理的に作成できる。	提出期限を守り、決められた様式に従ってレポートを作成することができる。	レポートを作成し期限を守って提出しているが、誤字脱字が見られたり、決められた様式と異なった様式で作成している。	提出期限を守ることができない。
技能	2. 自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができるが不十分である。	実習を振り返り、内容を整理して記入できない。
態度	1. 課題への取り組み	課題の意図を理解し、幼児教育施設/教育実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。幼児教育施設/教育実習の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは、課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できていない。
態度	2. グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。
態度	3. 主体的な取り組み	実習園や担当教員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当教員の指示があっても、実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		授業番号	EG401A	サブタイトル						
教員	土田 豊、藤井 裕士、清水 憲志、荒谷 友里恵、福澤 惇也										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修・選択	選択	
授業概要	2年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して、学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに、不足している知識・技能を補完・向上させ、保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育者としての使命感や責任感をもつことができる。</li> <li>2 保育者に必要な専門的知識をもつことができる。</li> <li>3 保育を取り巻く環境の変化について理解し、実践的に保育に生かすことができる。</li> <li>4 仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し、実行できる。</li> </ol> なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する 履修カルテ自己評価表を基に自分に不足している点について確認し、本授業における目標を設定する。						土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
第2回	保育者の役割について考える 保育者の専門的な援助を知った上で、現在の社会状況を鑑み、保育者の役割を問い直し、実践の在り方を再考する。						清水 憲志				
第3回	災害時の対応について考える 保育時に起こりうる危険について考え、災害への事前の備え・災害発生時の対応について理解する。						荒谷友里恵				
第4回	保護者支援のあり方について考える 保護者を取り巻く社会課題をふまえて保育現場の観点から実践的に保護者への対応の仕方を考える。						福澤惇也				
第5回	地域連携のあり方について考える 現代の子育てにおける地域連携の必要性について考え、園や自治体が実施している子育て支援についての理解を深める。						土田 豊				
第6回	教諭としてのあり方について考える 教諭として自分に足りない資質・能力を明確にし、その資質・能力を高めるための具体的なかつ実行可能な計画を考える。						藤井裕士				
第7回	障害児の理解について考える 療育や児童相談支援の専門家とともに事例を交えて特別支援のあり方を学ぶ。						NKM(外部講師)				
第8回	小学校への連携について考える 小学校1年生の授業風景を観察することで就学前後の連携・接続を考える。						福澤惇也				
第9回	模擬保育準備（1） 模擬保育に向けてグループごとで役割分担し、計画的に準備を進める。						土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
第10回	模擬保育準備（2） 模擬保育に向けてグループごとで役割分担し、計画的に準備を進める。						土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
第11回	模擬保育準備（3） 模擬保育に向けてグループごとでリハーサルを行い、流れを確認する。						土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
第12回	模擬保育準備（4） 模擬保育に向けてグループごとでリハーサルを行い、流れを確認する。						土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
第13回	模擬保育実施 準備してきた模擬保育をお互いに発表し合い、保育現場の先生に参観していただく。						土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
第14回	模擬保育振り返り 参観していただいた先生方から講評をいただいたり、学生同士で感想を述べあいながら、模擬保育を振り返る。						土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
第15回	本授業の振り返りとまとめをする 今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する。						土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
授業計画 備考2	実践演習全体の反省・評価・第1回目にもった課題の達成度を振り返る						担当：土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也				
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	50		グループ討議には意欲的に参加し、友人と協力しようとする態度で授業に参加している。								
レポート	50		授業ごとに学びをまとめ、時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で、すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。								
小テスト											
定期試験											
その他											
評価の方法：自由記載											
受講の心得	授業は演習形式で行われるので、学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し、保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について、グループ討論・ロールプレイ等を通して、自ら主体的に考えていくようにする。受講前には、履修カルテ(2)を必ず記入しておくこと。										
授業外学修	授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 授業後は配布された資料をよく読み、知識を整理すること。 演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
使用テキスト：自由記載	適宜、参考資料をプリントし、配布する。										
参考図書											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領』、文部科学省、平成29年度版 『保育所保育指針』、厚生労働省、平成29年度版										
その他											

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭(福澤惇也) 特別支援学校教諭(藤井裕士)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	小学校教諭
実務経験をいかした教育内容	保育所・幼稚園と小学校の連携に関して、学生の疑問に答え指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育場面における災害時の対応について理解できている。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について具体的に考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有しているが、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない場合がある。	保育場面における災害時の対応に関して十分な知識を有しておらず、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない。
知識・理解	2. 現代における保育者の役割について理解できている。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について具体的に考えることができる。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有しているが、子どもへの援助法について考えるに至らない場合がある。	現代における保育者の役割に関して十分な知識を有しておらず、子どもへの援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	3. 保護者支援のあり方について理解できている。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について具体的に考えることができる。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有しているが、個別性に配慮した応対策についてまで考えるには至らない場合がある。	保護者支援に活用できる知識を十分に有しておらず、個別性に配慮した応対策について考えが及ばない。
知識・理解	4. 地域との連携の仕方について理解できている。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について具体的に考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有しているが、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して十分な知識を有しておらず、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。
知識・理解	5. 就学後教育(小学校)への接続と連携について理解できている。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について具体的に考えることができる。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して知識を有しているが、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない場合がある。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して十分な知識を有しておらず、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない。
思考・問題解決能力	1. 適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	1. 災害対策の環境構成ができる。	災害時の対策において、豊富な知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示しているが、適切な環境構成が困難な場合がある。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示しているが、適切な環境構成が困難な場合がある。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示しておらず、適切な環境構成を行うには至らない。
技能	2. 対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思の疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。
技能	3. 子どもの成長に関して就学後を見据えた長期的な計画を立案できる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を具体的に立てることができる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有しているが、就学後までを長期的に見据えてはいるが、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない場合がある。	子どもの成長や発達に関して十分な知識を有しておらず、就学後までを長期的に見据えることが困難である。そのため、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない。
態度	1. 授業や課題に対して真摯に向き合うことができる。	授業内容や課題の意図を十分理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが、自分なりの意見をもちづつが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず、自分なりの意見もない。
態度	2. グループ活動の中で自身の役割を全うできる。	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかが発揮していないが、目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮しておらず、目標や目的に向かって取り組むこともできていない。